

善隣

No.526 通巻793

2022年（令和4年）7月1日発行（毎月1日発行）

2022

7



一般社団法人 国際善隣協会



第 11 回定時社員総会（2022年 5 月25日）

善 隣 目 次 2022年 7 月号

公開講演会記録

習近平をプロファイリングする
——D X大衆社会のトップの苦悩……………菱田雅晴 2

「対中抑止のフロンティア」か？「平和の緩衝地帯」か？
——琉球弧から考える中国・台湾……………岡田 実 12

さくらびと

野口雨情と「雨情しだれ」……………細川呉港 20

陶々俳壇……………馬場由紀子選 29

中国ウォッチング……………編・訳 上松玲子 30

協会通信・同好会だより…………… 32

2022年 7 月の行事予定…………… 33

みんなの写真館…………… 32
(姜晋如、新宅久夫)

善 隣 第526号 通巻793号

2022 (令和 4) 年 7 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会
TEL 03 (3573) 3051
FAX 03 (3573) 1783

発行人 矢野一彌
編 集 原田克子
編集協力 朝 浩之、校 正 菅沼玲子
印刷所 (有)ゆにおんプレス
定価 一部400円 年額4,800円
振替 00120-0-145956
国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345
©禁無断転載

当協会は、中国ならびに近隣諸国
との相互理解を深め、友好親善・交
流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

公開講演会記録

習近平をプロファイリングする

—DX大衆社会のトップの苦悩

法政大学名誉教授 菱田雅晴



伝統ある国際善隣協会でお話しする機会をいただき、誠に光栄に存じます。私は、現代中国をフィールドとして、その変貌過程のもつ社会学的な意味を追いかけております。

さて、本日は大仰なタイトルを掲げておりますが、今日のウクライナ・ロシア戦争にも典型的に窺われるように、国家指導者の内面心理、特に、権威主義体制の国家の場合、トップが何を考えているか、指導者の内なる思考のありようは国際関係の今後を考える際、極めて重要な要素となっています。

本日は、こうした関心から、党中央委員会議書記にして国家主席という中国の党・政・軍の最高指導者、習近平が今日の中国をどのように捉え、そこから何を

考え、何を進めようとしているのか……といった習近平のプロファイリング、つまり、習近平個人の内面心理に迫ってみようというのが目的です。先ず、前段で、習近平が立ち向かう現代中国社会をざっとスケッチし、その上でそうした中国の現状を習近平がどのように理解し、それに基づき、どのような政治を行おうとしているのか、という二段構えでお話したいと思います。

一、ITを社会実装したDX大衆社会

私は、現代中国社会を大衆社会状況とIT（情報技術）によるDX（デジタル・トランスフォーメーション）という二つ

のキーワードで捉え、「ITを社会実装したDX大衆社会」と定義しています。

1. 大衆社会状況

大衆社会論とは、産業革命を経た近代市民社会が現代社会へと移行する際に現れた「大衆」の社会的役割と意義づけに関する社会学理論です。特に、第2次世界大戦後の米国で展開された大衆社会論は、大衆管理の手段としてのマス・メディアの発達を重視し、民主主義的産業社会にも徹底した大衆管理が出現する可能性を指摘しました。

その大衆社会の特徴は、経済成長によってもたらされる豊かさ、便利さにあります。賃金／所得水準が向上し、購買力が拡大することで、大量消費社会が生まれ

ます。近代的財・サービスへの接近機会が増大し、マス・コミュニケーションの発達、教育の普及、そして交通・通信技術の発達により、ひとびとの世界が直接手に触れる世界から拡大してきます。そして、その社会的インパクトとして、

一部のエリートではなく、大衆 (mass) の行動が社会の動向を決定することになるといえるのです。生活様式・生活意識が画一化されることから、政治的無関心が進行し、孤独感と不安に囚われ、現実からの逃避も進むとも指摘されています。

また、大量生産を支える大規模化・複雑化した組織を合目的かつ効率的に管理運営する手段的機構として官僚制が発達することがもう一つの特徴として指摘できます。

こうした状況は、今日の中国の現実に当てはめて考えてみますと、改革開放以降の驚異的な経済発展は、まさしく大衆社会論の前提としての成長によってもたらされる「豊かさ、便利さ」をそのまま示しています。また、都市化と新中間層の拡大という大衆社会論の指摘は、中国の現状そのものであり、こうした点から中国の現況を大衆社会状況と捉えることができます。伝統的な共同体が崩壊し、人間および人間関係が非人格化し、

疎外感が進行するとの悲観論も現代中国と無縁ではありません。

したがって、かつて1970年代、米国の政治社会学者が描いた大衆社会状況が今日の中国社会に現出しているものと判断されます。

ただ、敢えて当時想定された大衆社会状況と今日の中国社会の相違点を挙げるとすれば、第一は、ひとびとの世界、世界観の想定を遥かに上回る拡大です。大衆社会論は教育、メディアの発達により、環境世界の拡大を指摘していますが、今日の中国にあつては、対外開放政策の影響もさることながら、急速なネット社会、情報社会の進展により、ひとびとの世界は飛躍的に広がっています。直接目にし、耳にするという物理的限界を超出し、一瞬にして時間、空間を超えることができます。仮令それがネット上のバーチャルな空間であるにせよ、キーボード操作のみでスクリーン上に自らの世界を拡げることができます。見渡し得る周囲のみに限定されていたかつての大衆とは異なり、環境世界の無限拡大と言ってもよいかも知れません。

第二には、官僚機構の発達も共通する要素ですが、現代中国の官僚組織体制にあつては「人治」の原則が幅を利かせて

います。本来の官僚制にあつては、匿名性、つまり誰がそのポストに座ろうともそのポストに賦与された権限と責任が変わることはないという点が大原則ですが、中国ではよく知られているように、そのポストに就いた人間は恣意的にその権限を用い、職権濫用というルール違反も汚職事件としてしばしば問題になっています。つまり、本来官僚制度として定められた客観的な規則、ルールを特定個人が主観的にそれを凌駕してしまうという「人治」が本来あるべき官僚制度を歪めてしまっています。

また、第三には、これが一番重要と思われるのが、エリートのありようです。大衆社会論では、一群の超エリート層がマス・メディアの表層に活躍するサブエリートを通じて無力な大衆を操作するという構図を描いています。ウォールストリートとホワイトハウス／キャピトルヒル、ペンタゴンをあたかも回転ドアのように行ったり来たりする政官財軍の超エリートをC・Wミルズは「パワーエリート」と呼びましたが、現代中国の精英「エリート」は3つのグループに分散されています。つまり、「権精英」(パワーエリート：従来から強大な権力をもっていた党和国家エリート)、「錢精英」(マネーエリ

ト：改革開放以降、新たに生まれた私営企業家、芸能人その他の高額所得者）、そして「知精英」（インテレクチャルエリート：知識人、言論人、ジャーナリスト、学者等）の3集団です。敢えて、ミルズの「パワーエリート」を大文字の「パワーエリート」とすれば、現代中国の「権精英」は小文字の「パワーエリート」とでも呼ぶべきかも知れません。そのため、パワーはあってもマネーのない「権精英」とマネーこそあれどパワーのない「錢精英」との間で「有無相通ず」とばかりにお互いしないものを交換取引することになります。これが汚職腐敗と言われる現象です。

2. IT社会実装によるDX

もう一つの現代中国社会の特性が、ITを社会実装することを通じ、今や世界の最先端を走っているDX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展です。中国のIT社会実装を端的に象徴するのが、コロナ（Covid-19）との戦いにおける中国の初期的な大成功です。「政治体制の勝利」とばかりに全世界に喧伝するまでに昨年当初段階における中国のコロナ制圧は目覚ましい成果を収めました。それは徹底したデータ管理によるひ

とびとの行動規制でした。実名登録の原則の下、ひとびとの行動、どこからどこへどのように移動し、誰といつ会ったのか、あるいは感染者に対してはどのような医療を受けたのか、あらゆる行動／医療情報データを実名認証、蒐集し、それらデータを分析した上で、入場入館等の行動規制に応用する、さらには、それらを健診コード、履歴証明としてデータを可視化し、感染リスクを最小化、ゼロにするというものでした。

加えて、監視カメラとAI（人工知能）にバックアップされた天網工程（Project Sky Net）という監視システムがそれを支えます。中国の監視カメラは、台数を見ても2019年時点で2億台とも言われ、1億台にも満たない日本とは大きな違いがあります。性能面でも、高解像度、高フレームレートの5Gハイスペック映像で、AIによる顔認証あるいは歩行認証システム等との組み合わせによりリアルタイムの監視システムが中国を覆っています。

さらに、それら行動データはビッグデータとして集積され、各人へのスコアとしてAIの評価アルゴリズムによって評価されることになります。こうしたITの社会実装に加えて、中

国の初期的なコロナ制圧のもう一つの要因が大衆動員形態の基層住民による監視です。いわばデータ情報技術による監視とひとによる監視の二本立てと言えます。「熱が出て黙っているのは大衆中に潜む階級敵だ」とか大書された横断幕が街中に張り巡らされ、腕章をつけたシニア住民が街角に立って厳しい監視の目を光らせる……といった光景が拡がりました。この基層監視は、最近では治安維持にも威力を発揮しつつあり、例えば、北京の「BJCYQZ北京朝陽群衆」という名の基層ボランティア組織は芸能人のスキャンダル、不法薬物の売買現場の取り押さえ等で勇名を馳せ、北京市公安局から表彰されるまでになっています。

とまれ、こうした状況は、権力サイドの評価アルゴリズムを通じて人間関係、社会関係そのものがスコア化され、常に監視の目に晒されることになります。外部のわれわれからすれば、権力からのまなざしを常に意識し、権力を内面化すること、ミシェル・フーコーのいう「自発的服従」あるいは「パノプティコン」（万物監視システム）状況となってしまうのではないか。息苦しくはないのか、個人のプライバシーなどないのか……とわれわれは危惧するわけですが、中国のこ

うした状況は『幸福な監視国家・中国』（梶谷懐・高口康太、NHK出版新書、2019年）が利便性、安全性の全面制圧と解説してくれています。この本はタイトルのとおり、明快に中国の「幸福な監視国家」を伝えており、是非一読をお勧めします。

ただ、では中国のひとびとはプライバシーに全く無頓着なのか、という点では、必ずしもそうとは思えません。「ネット・セキュリティで一番心配なのは？」という問いへのトップ回答は「個人情報情報の漏洩」（23・3％）で、これに続くのも「ネット詐欺」（21・1％）となっており、プライバシーが守られぬことを中国のひとびとも懸念していることが窺われます（CNNIC「中国互連網発展状況統計調査」）。

二、中国大衆社会の意識

では、先に述べた大衆社会状況は中国の現実にとこまで拡がっているのか、改めて検証してみましよう。

1. 潰えたチャイニーズ・ドリーム

先ずは、「豊かさ」の側面です。結論的には、中国全体としては確かに世界第2

位のGDP規模を誇る経済大国に登り詰めるまでに豊かになったものの、格差が拡大しており、個人個人にはその豊かさが十分に実感されているとは言えません。中国国家統計局の公表数値を見ても、月収5000元以下の低所得者および超低所得者が何と総人口の9割近く（88・95％）に達しています。1000元以下の超低所得者も4割を占めています（表1）。世帯別の可処分所得を見ても、その他所得グループがほぼ横這いであるの

表1 所得分布（2019）

収入階層	月収 (元)	規模 (人)	構成比 (%)
超低収入層	1000元以下	5億6000万人	39.70
低収入層	1000元—2000元	3億1000万人	22.13
	2000元—5000元	3億8000万人	27.12
中収入層	5000元—1万元	8000万人	5.71
	1万元—10万元	4000万人	2.86
高収入層	10万元—50万元	2500万人	1.78
	50万元—100万元	500万人	0.36
超高収入層	100万元—500万元	100万人	0.01
	500万元以上	10万人	0.00

中国国家统计局編『中国統計年鑑2019』

に対し、大きな増加を示すのは高所得世帯のみです。典型的な二極分化の傾向と言えます。

外部推計としても、クレディスイスのレポートによれば、2020年、トップ10％の富裕者層が中国全体の富の67・8％を握っているのに対し、底辺50％の貧困層はわずか6・4％を保有するに過ぎません（クレディスイスレポート）。このトップ10％層と底辺50％層との所得格差比を1900年以来的長期統計として見ると、1949年の建国以降の社会主義時期には縮小傾向をみせたものの70年代末以来拡大の一途を辿り、いまや革命以前の中華民国時期の貧富の格差状況が再現されつつあります。

いわば、豊かさという光が強ければ強いほど、豊かさによって映し出される影はより濃くなります。その意味で、中国全体としての豊かさによって、貧しさが逆照射されています。それを象徴するのが住宅事情です。各都市の平均住宅価格に対するその都市の平均年収の比率をとってみると、北京、上海、深圳では40倍を超えており、広州でも20倍となっています（Kenneth S. Rogoff and Yunchen Yang, PEAK CHINA HOUSING）。つまり、一生かかってもマイホームが手

に入らない「見果てぬ夢」と化しており、住宅保有が前提条件視される中国の結婚事情からすると結婚も「見果てぬ夢」とならざるを得ません。

夢なり希望なりを追い求めるのがひとの常とすれば、かくして、ひとびとは豊かになりたいという個人の夢を放擲し、民族なり、国家なりといった自らの存在を超える、より大きな存在にその夢を託さざるを得ません。いわば個人の夢としての「チャイニーズ・ドリーム」から国家の夢としての「チャイナ・ドリーム」への移項が行われることになります。

こうしたひとびとの価値意識のシフトに対応する形で習近平が掲げるものが「社会主義核心価値」の強調です。平等、民主、法治、誠信、公正等12価値が習近平「社会主義核心価値」に列されていますが、わずか6年の短時日の裡に平等、民主、公正意識への共感¹は低下し、代わって大きく上昇しているのが愛国意識です。先に触れたチャイニーズ・ドリーム²個人の夢からチャイナ・ドリーム³国家の夢へのシフトを如実に反映するものと思われま

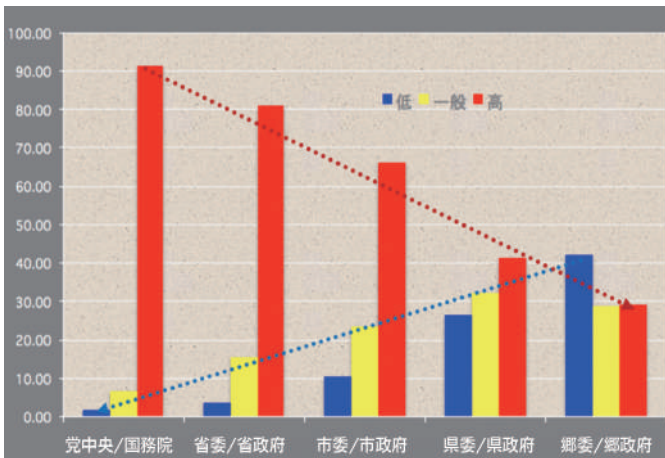
2. ひよわな大国意識、ナショナリズム
こうした愛国意識の高まりとは、大国

意識の昂揚とも言い換えられます。「これからの世界をリードするのは？」との問いに対し、過半近くが「中国」と答えており（有識者58%、一般市民層42%）、⁴「米国」（有識者47%、市民層31%）を凌駕しています（言論NPO、2012年）。ただ、「既に世界的に影響力を行使し得る強国となったのか？」と設問を替えてみると、肯定的回答は2割以下にとどまり、「不是」あるいは「還不完全是」の合計が8割近くを占めています。中国は大国となったにせよ、まだまだ「世界性強国」とはなっていないという冷静な判断が窺われます。その背景には、大国となったのは経済力のみであって、文化、外交面あるいは軍事面では依然影響力に乏しいとの思いもあるように思われます（ただ、これは2012年段階の調査結果であり、今日時点ではこの判断への変化も予想されます）。こうした民族意識、ナショナリズムの昂揚も、敢えて、ひよわなもの（fragile）と評する所以はここにあります。

3. 信任なき信頼
この冷静かつ慎重な大国意識ゆえに、より一層国家に寄せる信頼が強まることになります。36か国を対象にした「あな

たは自国が今向かっている方向に満足していますか？」との米国 Pew Research 調査を見ると、肯定的回答が9割を超える中国がぶちぎりの断トツ状態です。米国、日本等が2、3割にとどまっているのは実に好対照です。しかも、経年変化としても、各国が年を追うに従い、低下傾向を見せているのに対し、中国は自国将来への自信がますます高まっているのが特徴的です。

図1 信頼しているのは？



Pew Global Attitudes Project から作図

こうした圧倒的なまでの国家に対する信頼感は単に国外に向けられたもののみならず、国内的にも見出すことができず、地元の党政政府など信頼できないとされているのに対し、首都北京、党中央に対しては高い信頼が寄せられており、高信頼と低信頼のカーブは見事なまでに対角線をなしています（図1）。ひと頃「中央幹部＝恩人、省級幹部＝親人、県級幹部＝悪人、郷鎮幹部＝壊人！」という俚言がネット上で流布したこともありましたが、悪いのは悪辣な現地の幹部だと問題を地元にとどめ、不満が中央に及ぶことを回避する巧妙な党の「サバイバル戦略」の奏功とも推理されますが、地元幹部の圧政に喘ぐひとびとからすればこの窮状を救ってくれる誰かがどこかにいるはずだとの救世主（メシア）信仰もここに働いているかも知れません。あるいは、先に述べた「自発的服従」かも知れません。

いずれにせよ、圧倒的なようにも映るこうした国家中央への信頼感も、実は「信任なき信頼」といったレベルにとどまるものとも見られます。不信任という明確な「ノー」をつきつけることができない中にある、信頼するしかないといういわば強制された選択としての「非・

不信任」にとどまることから、「信任なき信頼」と形容することも許されまじう。

三、習近平のプロファイリング

さて、いよいよ本題の習近平の内面心理へのプロファイリングを試みることにします。

1. 民意モニター：習近平の耳朶

先ずは、これまで見てきたような現代中国社会の課題、つまり民意・民心の赴くところを習近平はどのように把握、理解しているのかという点です。中国のメディアについては「党の喉舌」としばしば形容されますが、この響みに倣うならば、習近平はどのように情報を得ているのか、「習近平の耳朶」にはどのようなものがあるのか、これを先ず考えることにしましょう。

「ザ・ブック／CIA大統領特別情報官」という米国NBC制作のTVドラマ（原題：State of Affairs）があります。キャサリン・ハイグル演ずるCIAの情報官、チャーリー・タッカーが毎朝大統領へのデイリー・ブリーフィング（PDB）を行い、米国の危機に対処する大統領

領の決断を助けるというサスペンス・ドラマですが、おそらく中国のトップ、習近平に対しても同様の情報ブリーフィングが毎日行われているものと推測されます。革命時期以来の伝統的な党中央党調査部、国家安全部系統の中国現代国際関係研究院、「老二」（ラオアル）と称される人民解放軍総参謀部第二部等々の情報諜報機関はもとより、中央党校、中国社会科学院、大学等の研究機関あるいはメディアの調査報道等からそれぞれの分野の情報が、秘書役の党中央办公厅主任、国家主席办公室主任（丁薛祥）の手許に集約され、取捨選択の後、最終的に習近平に届いているものと思われます。考えるまでもなく、森羅万象のあらゆる事態に対処しなければならぬ大きな責任があるトップにとって、それらすべてにつき、自らの目と耳で直接把握することなどとは時間的、物理的に到底不可能です。それぞれの専門組織からのコンパクトに要約された情報に頼らざるを得ません。ただ、こうした「習近平の耳朶」の詳細が伝えられることはなく、その全体像はよくわかってはいません。とはいえ、「習近平の耳朶」の一端を示すものとして、われわれの眼に直接触れることのできる公開情報の一つに「中央政治局集体

学習」と呼ばれる中国政治のトップエリートトの勉強会があります。これは、その時々
の最も関心ある重要テーマにつき、党中央政治局員ら最高権力者グループが中南海の懷仁堂の中型会議室に集い、その分野に関する選りすぐりの最高権威の専門家、研究者からレクチャーを受けるというものです。円卓の中央に座した習近平が開幕を告げ、慎重に選ばれた講師が周到な事前準備を経た草稿に基づき、講義を行った後、参加者と質疑応答を行い、

習近平が総括スピーチでこれを締め括るというものです。2012年の初回会合以来、このほぼ月例の学習会の開催は、テーマ、講師の選定から講義内容に至るまで党中央弁公庁がその仕切りにあたっており、特に講義原稿は開催2、3か月前から中央弁公庁主任に提出し、そのチェックが繰り返されることも聞きます。この党中央政治局集体学習の開催状況は、「中国共産党新聞網」(<http://cpc.people.com.cn>)「ほかで開催日時から講師名、主要参加者等が報じられています。その公開情報に基づき、開催状況、とりわけ講義テーマを分野別に整理してみると、政治分野では、革命伝統、革命精神、監察、党組織、法律分野では、民法、社会主義法治、憲法等のテーマがあり、科学

技術分野の量子科学、バイオ、ブロックチェーン、AI、ビッグデータ、経済領域の経済システム論、金融、デジタル経済、知的財産権問題等といずれも最先端のテーマがレクチャーされていることがわかります。習近平以下の中国指導部は、当代一流の専門家により、最新の知識が注入されるという贅沢な機会が確保されていることになります。

ただ、敢えて外部観察としての傍目八目の懸念を申せば、こうした習近平の情報取得に「確証バイアスの罠」といった危ういものがありはしないか？とも危惧されます。「確証バイアスの罠」とは、聞きたいものだけを聞く、聞きたくないものには耳を傾けないという選択的聴取のことで、この結果、反証情報を排除し、支持情報のみが溢れるエコーチェンバー状況に陥ることとなり、習近平自身の価値観の「バブル」の中で孤立を深めるフィルターバブル情報環境がもたらされかねません。

さらに、習近平の権力が大きければ大きいほど、周囲の側近も習近平の歓心を買おうべく、阿り、諂うことが有力な保身術となります。そうなれば、どのような情報をボスに上げるべきか、その際の側近の忖度アルゴリズムがこうしたエコー

チェンバー状況を加速するであろうことも十分予想されます。

2. 権力者の孤独

こうしたフィルターバブル情報環境にあって、習近平は孤立を深めることとなります。「最高権力者は最高権力者であるがゆえに常に孤独である」と喝破したのがシェイクスピア研究者のステイブン・グリーンブラットでした。彼は、その著書『暴君―シェイクスピアの政治学』(河合祥一郎訳、岩波書店、2020年)で次のように述べています。

「権力を得る過程で行使した手段は、その強みを知るがゆえに、自らの権力を奪う有力な手段であるとの認識をもつ。暴力で地位を奪ったものは暴力を恐れ、権謀術数で地位を奪ったものは権謀術数を恐れる。強みが自縄自縛となって、権力失墜の崖に自らを追いつ込んでいく」。

つまり、権力掌握に至った道とは、すなわち権力の座から滑り落ちる道であることを熟知するがゆえにその道を歩もうとする者への猜疑心を高めることになります。周囲の人間がその道を歩んでいるのではないかと疑心暗鬼に駆られ、側近の忖度にも疑いの眼を向けます。おそらくこうした猜疑心は習近平というトップ

個人のみならず、戦争、軍事革命によって革命を成就させた党自身の裡にも組み込まれており、いわば党のDNAと言っても過言ではないかも知れません。

「下衆の勘繰り」とも言われかねないこうした推測は、実は、私だけでなく、最近中国のあるブログにも同様の指摘が出現しています。「方舟与中国」というアカウント名の《客観評価習近平》と題する書き込み記事は、習近平はいま薄氷を踏むような心境にあると断じています。習近平は「両面人」（＝面従腹背）を憎むと公言し、「絶対的忠誠」を繰り返して求め、「ニセ忠誠」は許さないと強調しているものの、周囲に頼らざるを得ない一方で、周囲の共謀や陰謀を常に警戒しているという内容です。当然、この書き込みは即削除の憂き目に遭いました。そのこと自体何かを意味しているかも知れませんが…。

「両面人」を疑い、「ブルータス、お前もか」状況を恐れる…極論すれば、習近平は「裸の王様」的な罠に陥っているのかも知れません。もっとも、権威主義体制の孤独なトップ指導者という点では、当今のプーチン大統領の心情にも相通じるものを見出すことも許されそうです。

3. 習近平の憂鬱・焦慮

次にもう一步進めて、こうした疑心暗鬼に陥った習近平の内面心理に迫ってみましょう。それは、異論、異分子、つまり政敵、外敵、内敵の三つの敵からの攻撃・叛乱を恐れる憂鬱、焦慮です。中南海内外における政治的ライバルという「政敵」、国外から体制転覆の陰謀を張り巡らす「外敵」、そしてほかならぬ中国社会自身の叛乱という「内敵」が襲ってくるという悪夢です。具体的には、二つの悪夢に集約されます。一つはこれら「敵」が「徒党を組む」という事態で、規模の問題とも言い換えることができます。当時の党員総数を上回る信徒数を公表していた法輪功が公安当局が察知する前に中南海をグルッと囲い込む不気味なデモを展開したことに肝を冷やした江沢民以来の悪夢です。少数の「敵」がバラバラに分散している限りは、個別に対処すれば済みますが、優れたリーダーが現れ、また全体をまとめ上げる何らかの価値、目標に向かって、「徒党を組む」として、規模が拡大し、組織化され、運動として拡がって行く…まさに規模の悪夢と言えます。

もう一つの悪夢が、例えば、香港、台湾で何か不都合な事態が発生した際に、

外交部スポークスマン等が常に口にする「外国勢力の陰謀」という常套フレーズです。かつて毛沢東は「和平演変」、つまり平和的手段による社会主義体制の転覆を狙った西側の陰謀への警戒感を国内的引き締めに活用しました。改革開放期を迎え、西側との関係強化から、この「和平演変」反対のスローガンはあまり表には出なくなりましたが、やはりこの「反中勢力、外国勢力の陰謀」の悪夢は中南海の底流として存在しているようです。

では、最高権力者としての孤独に陥り、周囲への疑心暗鬼に苛まれる習近平はどのような執政統治を進めようとしているのでしょうか。実は、古今東西、統治の手法・手段はさしてたくさん種類があるわけではありません。(1)カリスマ支配Ⅱ（毛沢東型のリーダーシップ）、(2)制度統治Ⅱ（信頼（合理性、ルールへの準拠）、(3)弾圧政治Ⅱ（恐怖（力による異論・異端の排除）、(4)大衆迎合Ⅱ（人気（不満・期待の先取り）といった4種のガバナンス・スタイルに集約されますが、習近平自身、毛沢東のような絶対的な個人カリスマをもっているとは過信してはいないでしょう。なるがゆえに、習近平のガバナンスの選択とは、上記(2)から(4)の制度統治と高圧的な政治弾圧スタイルと大衆

の不平不満あるいは期待感を先取りする人気取り政策で大衆に迎合するポピュリズムを組み合わせた、いわばハイブリッド型の統治により、結果としてカリスマ状況を作り出すという「状況カリスマ」的ガバナンスに向かわざるを得ません。まさしく今日の中国の現実の政治状況はこうした習近平の選択を示しています。

まとめに代えて：ひよわなポピュリスト

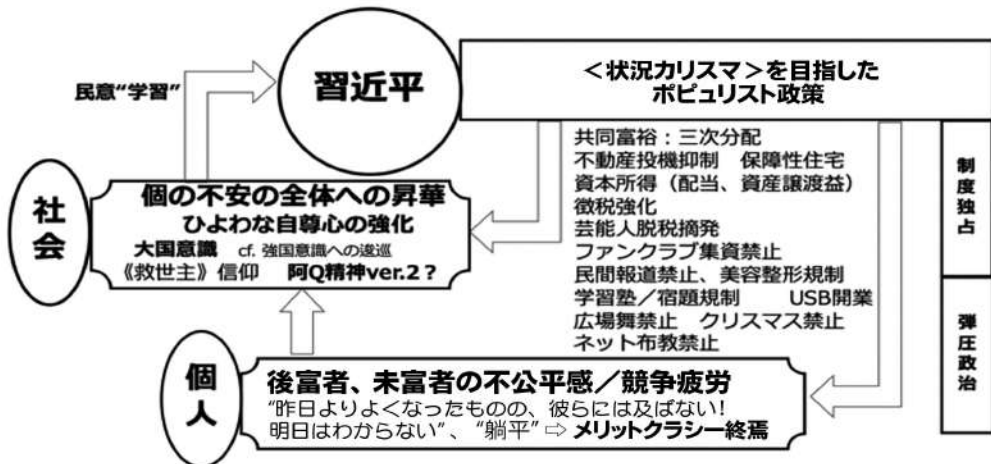
では、最後に、これまで長々とお話してきたところをとりまとめて、今日のお話の結論らしきものを探ってみたいと思います。

個人の意識のありようが社会意識に反映され、それを「学習」した習近平がさまざまなポピュリスト政策として打ち出しているという構図を一つのストーリーとしてまとめると図2のようになります。つまり、確かにかつてに較べて暮らし向きはよくなったものの、あの連中には到底敵わないし、明日どうなるかはよくわからないと不公平感から、改革開放以来の競争レースに倦み疲れ、個人としての「チャイニーズ・ドリーム」を諦め、その不安心理を自らを上回るより大きな存在

としての国家、民族の「チャイナ・ドリーム」へと昇華させることでひよわな自尊心の強化を図る…かつて魯迅が描いた「阿Q精神」の現代版と言えなくもありません。こうした民意・民心の方向を「学習」した結果として、習近平が打ち出しているのが、共同富裕／三次分配の再強調に象徴されるポピュリスト政策です。もはや詳述する時間的余裕はありませんが、不動産投機抑制、資本所得（配当、資産譲渡益）への徴税強化、芸能人の脱税摘発、ファンクラブ集資禁止、美容整形規制、学習塾／宿題規制、USB（ユニバーサル・スタジオ・北京）開業、広場舞、クリスマス、ネット布教の禁止等々、枚挙の暇もありません。これらポピュリスト政策の展開が、抑圧的な強硬統治と共に習近平の制度的権力の強化に寄与しています。

翻って、こうしたポピュリスト政策には、ひとびとの間にある種の「熱狂zeal」を巻き起こすことで政治社会的統合を達成することが前提となっています。そのツールとは、従来「建国の熱狂 Revolution zeal」「改革の熱狂 Reform zeal」が有効に機能しましたが、前者では社会主義イデオロギーの失効により、後者では貧富の格差の拡大という不公平感、不平等感の浸透により次第に減衰し

図2 民意の所在とポピュリスト政策



てしまいました。今その役割を果たすべく政治的に期待されているのが、大国意識に支えられた「中国夢」であり、習近平が「中華の偉大な伝統の復興」と表現するものです。

上に見たようなポピュリスト政策を習近平が進めようとするのもまさしくこの所以です。昨年発表された新たな「歴史決議」には、「新時代における我が国社会の主要な矛盾は人民の日増しに増大する素晴らしい生活への需要と発展の不均衡かつ不十分との矛盾」とされています。すなわち、ひとびとのよりよい生活へのニーズに対し、われわれの供給が不十分なところが今日の最大の矛盾だという習近平の認識をここに窺うことができます。

その意味で、習近平がバナンスを民意・民心を「背乗り」したポピュリズムと形容することができそうです。内に向かっては、社会福祉、公共サービス提供レベルの引き上げ、公正／平等、廉政建設を謳い、外に向けては、より「大国にふさわしい」地位と尊厳を追求するという政局掌握のための民意・民生重視スタイルだからです。

また、敢えて、この習近平ポピュリズムに「ひよわ」という形容句を冠するのは、精妙かつ慎重な政策／政権運営ステ

アリングが求められるがゆえです。特に、秋の党大会という重要イベントを控え、人心掌握のために人事掌握が肝要ですが、そこには何度も触れたとおり、周囲の忠誠心／忖度レースがあります。その結果として確証バイアスの罠も控えています。さらに何らかの形で習近平の手許に「民意」がそのまま届いたとしても、それは単なる「権力のまなざし」を内面化した結果としての「自発的服従」に過ぎないのかも知れません。

その意味で、中国の最高権力者の座にある習近平をプロファイリングしてみると、『ひよわなポピュリスト』というイメージが浮上することになります。

習近平は、登場当初、ディズニの「くまのプーさん」似の体型から凡庸な指導者ともいわれ、最近では強大な権力基盤を確保した毛沢東超えを狙う独裁者ともされますが、容貌のみから、あるいは制度の表層のみから判断するのは大きな間違いとなるかもしれません。今日は敢えてそうした従来の習近平像に挑戦すべく『ひよわなポピュリスト』というイメージを提起してみたような次第です。（オンライン講演会・2022年4月28日）

◆筆者略歴（ひしだ まさはる）

専門は社会学、現代中国学。1950年長野県長野市生まれ。1974年東京大学文学部社会学科卒業（社会学専攻）。1981年北京大学経済系進修課程修了（政治経済学）。

日本貿易振興機構（JETRO）、静岡県立大学国際関係学部教授、評議員、研究科長、駐中国日本大使館専門調査員、OECDコンサルタント、京都大学経済研究所非常勤講師、青山学院大学国際政治学研究科非常勤講師等を経て、2004年法政大学法学部／大学院政治学研究科教授。2021年法政大学名誉教授。

主著書に、『共産党とガバナンス』（東京大学出版会、2016年）、『日中関係　なにが問題か―1972年体制の再検証』（岩波書店、2014年）、『中国共産党のサバイバル戦略』（三和書籍、2012年）、『経済発展と社会変動』（名古屋大学出版会、2004年）、『深層の中国社会―農村と地方の構造的変動（勁草書房、2000年）、『社会―国家との共棲関係』（東京大学出版会、2000年）、『岩波 現代中国事典』（岩波書店、1999年）等がある。

「対中抑止のフロンティア」か？ 「平和の緩衝地帯」か？

— 琉球弧から考える中国・台湾

岡田 実（会員・学術顧問）

はじめに

「駐屯地がなければ平和的にすむのか。占拠されてしまう。（中国は）何もない所にも滑走路を造る。目を反らしてはいけない」。

これは2022年3月18日の『八重山毎日新聞』に掲載された、与那国町議会での糸数健一町長の発言である。定例議会において、田里千代基町議と糸数町長は、「台湾有事」や陸上自衛隊与那国駐屯地の強化をめぐって激しい論戦を繰り広げた。日本の最西端に位置する人口1700人ほどの小さな島で、「中国が攻めて来る」ことへの対応を町議会で真剣

に議論しているのが今の日本の現実だ。

連日の緊迫するウクライナ情勢において、「日本にとって対岸の火事ではない」という一節が付された報道が目につく。これもいうまでもなく「中国脅威論」「台湾有事」を念頭に置いたものにほかならない。このことが、日本人の対中心理に大きな影を落としているだけでなく、以下に紹介する3つの報道は、日本が米中の軍事衝突に巻き込まれる事態を、リアルなものとして考えざるを得ない段階にあることを示している。

第一に、米国が対中ミサイル網計画を進めており、その配備先として日本が「最有力候補」とする報道である「例えば

朝日新聞2021年7月8日「米、対中ミサイル網計画 配備先、日本は「最有力候補」」。第二に、自衛隊と米軍が、台湾有事を想定した新たな日米共同作戦計画の原案を策定し、有事の初動段階で、米海兵隊が鹿児島県から沖縄県の南西諸島に臨時の攻撃用軍事拠点を置くとした報道である「例えば共同通信2021年12月24日「南西諸島に攻撃拠点 米軍、台湾有事で展開」」。第三に、台湾を訪問中のポンペオ前米国务長官が、「米国は台湾を正式に国家承認するべきだ」と主張した報道である「例えば時事通信2022年3月4日「米は台湾の国家承認を」訪台の前国务長官が持論」」。米国の支持を背景に台湾が独立に動けば、中国がそれを看過するとは思えない。

筆者は安全保障の専門ではないが、中国廉政研究プロジェクトに参加していたことから、2021年5月に前宮古島市長が新駐屯地の用地取得をめぐる収賄罪で逮捕されたという報道に強い関心を持った。「二把手」(トップ)の汚職事件ということで、中国の構造と類似しているからである。

現地を訪問してみても驚きを禁じ得なかったことは、ここ数年で、琉球弧に続々と自衛隊基地が建設され、「要塞化」が急速に進んでいることであつた。そしてこの動きに対し、島民から強い反対運動が巻き起こっていた。沖縄戦を体験した島民には、万一武力衝突が発生した場合に真っ先に「標的」となるという強烈な危機感がある一方、人口流出が続く島の生活を守っていくためには自衛隊受入れはやむなしと考える島民もまた多数存在する。経済効果に加え、災害時の救援や急病患者の搬送でも自衛隊の存在は頼りになる。島民の分断構造がここ数年で深刻なものとなっていた。

別の観点から見れば、これは離島地域の発展戦略の問題でもある。例えば与那国町は、「自立へのビジョン」を掲げ、島の将来像を「台湾や中国、東南アジアなど世界の国々と自由に往来する」「交流

の島」とする発展戦略を描いていた。この「ビジョン」策定の後に現れたのが、国策としての自衛隊の南西シフトであつた。島は、この大きな二つの方向性、すなわち台湾や近隣諸国との平和で友好的な関係を基盤とした「国境交流特区」を目指すのか、それとも「対中抑止のフロンティア」として、手厚い財政支援などを前提に自衛隊と共存するのが交錯し、揺れ続けている。

本稿は、以上の背景を踏まえ、1では、「対中抑止のフロンティア」としての琉球弧の実相を報告する。2では、琉球弧が東アジアとの交流・協力による発展にどのように取り組んでいるのか、与那国島の事例を紹介する。

1. 「対中抑止のフロンティア」としての琉球弧

(1) 急速に進む自衛隊の南西シフトと日米軍事一体化

自衛隊の南西シフトは、2016年の与那国駐屯地開所の「成功経験」を経て、2019年に宮古島駐屯地(地対空/艦ミサイル部隊)が既に開所されており、2023年3月には、石垣島の駐屯地も

完成して、ここでも地対空/艦ミサイル部隊が配備される段階まできている。

米国は渡洋攻撃力を持つ中国原潜の太平洋進出を阻止するため、九州―沖縄―台湾―ボルネオを結ぶ「第1列島線」内に中国を封じ込め、日本―小笠原諸島―グアムを結ぶ「第2列島線」へのアクセスを許さない戦略を基本とし、琉球弧に配備された自衛隊には、第1列島線への「中国封じ込め」の役割を担うことを期待していると考えられる。

また、米国の安全保障にとって、台湾は重要な地政学的意義を有している。もし中国が台湾を統一すれば、中国軍は何の障害もなく台湾から太平洋に軍事力を展開することが可能となる。現在のように第1列島線の海峡で米軍に探知されることなく、いつでも米国に対して核攻撃ができるようになることは、米国にとって受け入れることができない脅威なのだ[森本敏・小原凡司『台湾有事のシナリオ』ミネルヴァ書房、2022年、58頁、314頁]。

2022年1月の「日米2プラス2」で米側が自衛隊に提案した日米共同作戦計画は、中国への対処を念頭に、部隊の小規模、分散展開を骨格とする海兵隊の新たな運用指針「遠征前方基地作戦(EABO)」に基づくものとされている。

米軍は中台紛争への軍事介入を視野に、対艦攻撃ができる海兵隊の高機動ロケット「ハイマース」を拠点に配置し、自衛隊に輸送や弾薬の提供、燃料補給など後方支援を担わせ、中国艦隊の排除に当たる。海兵隊は相手の反撃をかわすため、拠点となる島を変えながら攻撃を続ける。その拠点の候補は40か所に上るとされる。〔共同通信2021年12月24日前掲記事〕。

一方、米軍はすでに現在の沖縄海兵隊1万9000人のうち、5000人をハワイへ、4000人をグアムに移転することを決めており、今後大幅に縮小していく。また米国が台湾をめぐる中国と全面戦争・核戦争を行うとは考えにくいことは、ウクライナの事例を見ても明らかであろう。「台湾有事」においては、米軍主力は遠方のオーストラリア、ハワイ、グアムに拠点を置いて中国軍の攻撃を回避しつつ、台湾およびその周辺の第1列島線を主戦場とした限定戦争を進めていく可能性が高い。米軍と一体となり、最前線で中国軍と対峙する自衛隊の姿が浮かんでくる。

こうしてみると、米・日政府と琉球弧の三者の思惑は異なり、「同床異夢」の三層構造であるように筆者には思える。すなわち米国は本土防衛のため第1列島

線内で中国を封じ込めるために自衛隊が必要であり、日本は尖閣、離島防衛のために米軍の力を必要としている。防衛省は住民説明会において、部隊配置の目的は「力による現状変更を許容しない」との我が国の意思を示し、島嶼部への攻撃に対する抑止力を高めるものである」との統一見解を繰り返している。他方琉球弧の自治体はいずれも財政難に喘いでおり、島の生き残りこそが自衛隊受入れの大きな動機となっているように見える。

以下各種報道をもとに、自衛隊受入れをめぐる対応を島ごとにみていきたい。

(2) 与那国島

2006年9月、石垣島を訪問したケビン・メア在沖縄総領事は、「万が一、台湾海峡か尖閣諸島、あるいは八重山諸島で紛争が起きるような場合、米軍は作戦遂行の必要上、台湾とは目と鼻の先と違っていい石垣島や与那国島の港を使用する必要がある」と明言する「ケビン・メア『決断できない日本』文藝春秋、2011年、162〜163頁」。そして翌2007年6月に米海軍掃海艇2隻の与那国島寄港計画が突如持ち上がる。米掃海艇2隻は、反対住民による抗議集会が開かれる中、祖納港に入港を果たした。

2008年1月、島内で与那国防衛協会が結成される。自衛隊誘致活動が開始され、2009年6月には与那国町長・議会が自衛隊誘致を浜田靖一防衛大臣に要請するなど、事態が大きく動く。これに対し、反対派住民らが、住民投票条例制定の直接請求を粘り強く行った結果、2014年11月、ようやく民意を問う住民投票条例が可決され、住民投票が実施されることになった。しかしこの間建設に向けた諸手続きが粛々と進み、建設着工式も2014年4月に挙行済みであった。したがって、住民投票が行われた2015年2月の時点では、すでに新駐屯地建設は既成事実化してしまっていたのである。住民投票の結果も、賛成が反対を上回り、反対運動は後景に退いていく。そして2016年3月、与那国駐屯地が正式に開所し、約160人の隊員が着任したのである。

報道によれば、自衛隊誘致の効果として、駐屯地の賃貸借料年間1500万円、隊員とその家族計250人が転入したことによる町民税増、それに伴う交付税増など、新たな収入5800万円が得られている。隊員の子ども13人が小学校に編入し、複式学級が解消された。また2021年には建設費約23億8000万

円の約9割を防衛省の補助でまかされたゴミ焼却施設が稼働し、学校給食は駐屯地の完成前の2014年から無料となっていた。

他方、誘致により発生した被害も見過ぎせない。2016年以降、1400人余りしかいなかった島に、新たに250人の自衛官とその家族が転入した。そのことが町長や町議選挙に実質的な影響を及ぼし、従来からの住民自治が空洞化するのではないかとの懸念がある。「飯島滋明「与那国島への自衛隊配備と日本国憲法」『名古屋学院大学論集』56巻3号、192頁。また、自衛隊誘致をめぐる賛成派・反対派の対立はコミュニティに深刻な影響を及ぼしており、島民分断の傷は深い。

(3) 宮古島

与那国駐屯地の着工式が終わり、与那国町を二分した住民投票結果が2015年2月に判明したその3か月後、左藤章防衛副大臣が宮古島と石垣島を訪れる。宮古島では下地敏彦市長と会談し、陸上自衛隊を配備する計画を説明するが、これに反対する島民は、同月「止めよう「自衛隊配備」宮古郡民の会」を結成し、現在まで続く反対運動が本格的に開始されることになった。

防衛省側は、経営破たんしていたゴルフ場と旧牧場の2か所を候補地として提示したが、翌2016年6月、下地市長は地下水汚染の恐れが判明した旧牧場ではなく、ゴルフ場に候補地を一本化する条件で新駐屯地建設受入れを表明した。2017年1月の市長選挙でも、下地氏が3期目の当選を果たす。

反対住民による抗議活動が続く中、2017年11月には元ゴルフ場での造成工事が始まり、2019年3月に宮古島駐屯地が開所される。そして翌2020年3月には地対空／艦ミサイル部隊700／800名の隊員が配備され、さらに同年10月、保良地区で弾薬庫の建設工事を開始する。

こうして着々と進められた新駐屯地建設であったが、2021年1月の市長選挙で、4期目の当選を目指した下地氏が敗れる結果となった。さらに宮古島を震撼させたのが、同年5月の下地前市長の逮捕であった。下地前市長は前述のゴルフ場の土地を自衛隊駐屯地用地として国に売却できたことに對する謝礼として、2018年5月にゴルフ場の社長から現金600万円を受け取ったとする贈収賄の容疑で起訴される。ゴルフ場社長は初公判で起訴内容を認め、負債約8億円を

抱える中、下地前市長に「必ずお礼はします」と、土地が売却されるよう何度も陳情したと述べた。下地前市長は無罪を主張したが、2022年2月、那覇地裁は有罪判決を下している。

(4) 石垣島

石垣島では長く革新系市長が続いたが、2010年2月、保守系の中山義隆市長が当選する。そして同年12月、石垣市議会は、1月14日を「尖閣諸島開拓の日」とする条例を可決し、石垣市は「尖閣諸島開拓の日」記念式典を開始する。海自の掃海艇もたびたび石垣港に寄港するようになった。

2014年3月の市長選で、中山氏が再選されるが、翌2015年5月、前述のとおり石垣島に左藤防衛副大臣が来島し、中山市長に対し調査協力の要請を行う。これに反発した島民は同年8月、「石垣島への自衛隊配備を止める住民の会」を結成するが、一方誘致に賛成する島民によって同年10月、「石垣島自衛隊配備推進協議会」が結成される。島内の意見が割れる中、同年11月、若宮健嗣防衛副大臣は中山市長に、自衛隊駐屯地建設方針を正式に伝達したのである。

これに対し2016年1月、建設候補

地周辺3地区住民が配備反対を表明し反対運動を展開するが、同年9月、市議会で「自衛隊配備を求める決議」が可決され、同年12月、中山市長は自衛隊配備について諸手続き開始を表明する。2018年3月には市長選で中山氏が3期目の当選を果たし、同年7月、中山市長は自衛隊駐屯地の建設受入れを正式に表明して、2019年3月、造成工事が開始されることになる。そして2022年2月に行われた市長選挙でも中山氏が4期目の当選を果たした結果、2023年3月に、新駐屯地開所が確定的なものになったのである。

2. 「平和の緩衝地帯」としての琉球弧

2015年12月、翁長雄志沖縄県知事は、代執行訴訟における「陳述書」において以下のとおり述べている『琉球新報』2015年12月2日「代執行訴訟 翁長知事陳述書全文」（傍線筆者）。

「基地問題の解決を図ることは、県政の最重要課題です。基地の整理縮小を図ることは当然ですが、将来的には、平和の緩衝地帯として沖縄があってもいい

【年表】与那国・宮古・石垣における自衛隊南西シフトの動き

年	国際動向・政府の動き	与那国島	宮古島	石垣島
2006				9月：ケビン・メア沖縄総領事が石垣島を訪問。
2007		6月：米軍掃海艇2隻が来港。		
2008	12月：中国公船が尖閣諸島の領海に初めて侵入。	1月：「与那国防衛協会」が結成。 9月：自衛隊誘致要請決議案が町議会で可決。		
2009		6月：与那国町長、議会が自衛隊誘致を防衛大臣に要請。		
2010	9月：尖閣・漁船衝突事件。	3月：北澤俊美防衛大臣来島。 9月：「自衛隊誘致に反対する与那国改革会議」が反対署名を町長と議会に提出。	9月：米軍掃海艇が平良港へ入港、市民・労働団体が抗議行動。	2月：市長選挙で、中山義隆氏が当選。
2011			3月：伊良部で「自衛隊を誘致する会」発足。 5月：「宮古島平和運動連絡協議会」結成。	
2012	9月：日本が尖閣諸島を国有化。	9月：与那国町議会、住民投票条例案を否決。		4月：地对空誘導弾「バトリオット3」を配備。
2013		6月：与那国町有地の賃貸借契約の仮契約を締結。		
2014	11月：APECで、初の安倍晋三首相－習近平主席会談。	4月：与那国駐屯地建設着工式。 11月：住民投票条例が可決。		3月：市長選で、中山市長が再選。
2015		2月：住民投票の結果、賛成58.7%、反対41.3%。	5月：左藤軍防衛副大臣が自衛隊基地建設方針を下地市長に伝達。 5月：「止めよう『自衛隊配備』宮古郡民の会」結成。	5月：左藤防衛副大臣が石垣市に対し調査協力要請。 8月：「石垣島への自衛隊配備を止める住民の会」結成。 10月：「石垣島自衛隊配備推進協議会」結成。 11月：若宮防衛副大臣が市長に、建設方針を伝達。
2016		3月：与那国駐屯地開所。	6月：下地市長は、候補地をゴルフ場に一本化することを条件に容認。	9月：市議会で「自衛隊配備を求める決議」可決。 12月：市長が自衛隊配備諸手続き開始を了承。
2017	12月：米国「国家安全保障戦略」を公表。米国の対中認識が明確に変化。	5月：河野克俊統合幕僚長がハリス米太平洋軍司令官を伴い、初めて与那国駐屯地を訪問。	11月：元ゴルフ場での造成工事開始。	5月：防衛副大臣が市長に具体的な施設配置案を伝達。
2018	1月：米国「国家防衛戦略」を公表。「中国とロシアとの競争」を戦略の中核に。	3月：天皇・皇后両陛下訪問。	1月：福田達夫防衛大臣政務官が来島し市長と面談（保良地区で弾薬庫建設の伝達）。	3月：市長選で現職中山市長が3期目の当選。 7月：市長が自衛隊駐屯地の受入れを正式に表明。
2019	6月：米国「2019インド太平洋戦略報告書」公表。 8月：INF（中距離ミサイル削減）条約が失効。		3月：宮古島駐屯地開所。	1月：旧ゴルフ場の売買・賃貸借契約が防衛省との間で締結。 3月：造成工事開始。
2020	10月：日米共同統合演習において、統合水陸両用作戦訓練を実施。		3月：陸自のミサイル部隊移駐。 10月：保良地区で弾薬庫建設工事開始。	4月：市有地に関する契約関係をすべて完了。
2021	3月：QUAD首脳会議。 3月：日米2+2で台湾問題に言及。 4月：日米首脳会談で「台湾」が共同声明に盛り込まれる。 6月：G7で中国を名指し批判。	8月：町長選で糸数氏初当選。 11月：米インド太平洋軍ジョン・アキリーノ司令官と山崎幸二統合幕僚長が訪問。	1月：市長選挙で下地氏が落選。 5月：下地前市長が贈収賄の容疑で逮捕。 9月：贈収賄に有罪判決。	
2022	1月：日米2+2で、「共同計画作業」に言及。		2月：下地前市長に有罪判決。	2月：市長選挙で中山氏が4期目の当選。
2023				3月：石垣島駐屯地開所予定。

出所：各種報道、資料に基づき筆者作成。

たいと思っています。日本の防衛のため
 といって基地をたくさん置くのではなく、
 平和の緩衝地帯としての役割をこれから
 沖縄が果たしていき、アジアと日本の架
 け橋になることを夢見ながら今、私は県
 政に取り組んでいます」。

2005年、与那国町議会が全会一致
 で議決した「自立へのビジョン」、それ
 を基にした「国境交流特区構想」は、翁
 長が描いた沖縄の将来像と軌を一にして
 いる。与那国の人々は、島と東アジア経
 済圏、とりわけ台湾との連携を強化させ、
 「平和の緩衝地帯」とする発展戦略を描
 いていたともいえる。しかし、この発
 展戦略はいまだ実現を見ていない。

では、なぜ2005年に「自立へのビ
 ジョン」がとりまとめられたのか。なぜ
 この発展戦略が頓挫しているのか。そし
 て2019年度から新たに着手した「国
 境交流結節点化推進事業」とはいかなる
 ものか。以下、順に見ていこう「与那国
 町役場HP、『与那国町史第三巻』、2013年な
 どを参考にした」。

(1) 与那国―台湾の交流の源流

戦前、与那国の産業は台湾と密接な関
 係にあった。1920年代から基隆や、

東部沿岸の蘇澳との取引が盛んであり、
 基隆や台北には、沖縄人集落も形成され
 ていた。与那国中学校の生徒は修学旅行
 で台湾に行き、島民の出稼ぎ先、就職先
 として、発展した台湾の存在があった。
 また与那国では台湾銀行紙幣も流通して
 おり、半ば台湾経済圏の中にあっただい
 えよう。この密接な経済関係は、戦後、
 日本と台湾の間に国境線が画定されても、
 「密貿易」として継続する。与那国の漁
 民は、目に見えない国境線を意識するこ
 となく、友人・知人がたくさんいる台湾
 の市場に運び、食糧品を持ち帰ったので
 ある。

この行為は、米軍占領下の為政者から
 見れば「闇取引」であった。1949年
 に大陸で中華人民共和国が成立すると、
 米軍用品や薬莖などが中国大陸に流出し
 ていくことはもはや許されなくなり、厳
 しい取り締まりが始まる。その結果、島
 民は仕事を求めて島を離れ、急激な人口
 流出が始まる。また島に高校がないため、
 進学のために「十五の別れ」があったこ
 とも大きな要因であった。2015年の
 人口は1500名を切り、戦前の「繁栄
 する国境の町」から「疲弊した辺境の地」
 への変貌を余儀なくされたのである。

(2) 与那国の政策決定：「自立へのビ ジョン」の議決

こうした中、重要な選択を迫られたの
 が、「平成の大合併」期に浮上した石垣
 市、竹富町との合併問題であった。20
 04年10月の住民投票で、島民は合併を
 否決。これを受けて町議会が全会一致で
 決議したのが「自立・自治宣言」と「自
 立へのビジョン 自立・自治・共生」ア
 ジアと結ぶ国境の島 YONAGUNI」
 であった。

「宣言」の第5、第6項では、次のと
 おり花蓮市との交流、東アジアとの共生
 を強調している。

一 私たちは、すでに友好関係を深めて
 いる花蓮市をはじめとする台湾など、近
 隣・東アジア地域と一層の友好・交流を
 推進するとともに、相互発展の道を築き、
 国際社会の模範となる地域間交流特別区
 の実現に向け努力することを誓う。

一 私たちは、東アジアの平和維持と国
 土・海域の平和的保全等に与那国が果た
 してきた役割への正当な評価のもとに、
 日本国民としての平穏な暮らしを実現し
 ながら、平和な国境と近隣諸国との友好
 関係に寄与する「国境の島守」として生
 きることを誓う。

花蓮市との姉妹都市締結は、1982年まで遡る。きっかけとなったのは、祖納港の拡張工事であった。工事に必要となる大量の碎石の購入先として浮上したのが貨物船で約5時間の台湾東部・花蓮市であった。現在も与那国町役場前に、写真のように立派な記念碑が置かれている。



(2022年3月：筆者撮影)

(3)「構造改革特区」の頓挫

「地域間交流特別区の実現」に向けた動きは、まず2005年に「国境交流特区」構想を、政府の「第7次構造改革特区」募集への申請として提出することから開始される。この申請は「国境離島型開港」「台湾・花蓮港との直接航行」「査証免除」を求める内容であった。与那国の港は外国との通商・貿易が許可されていない「不開港」であるため、税関・入

管・検疫の担当機関がないことが最大のネックであったことから、これらの緩和が必要であった。しかし政府は、全国的に実施された査証免除を除き、すべて対応不可と回答する。

与那国町は、翌2006年、第10次募集で再度「国境交流特区2006」に挑戦する。主要提案内容は「国際防災協力特区」「国境交流支援・短国際航海安全航行促進特区」「国境離島型開港」を求める内容であった。しかしこの申請に対する政府の回答も、基本的にすべて対応不可というものであった。それは島の将来をかけて真剣に取り組んできた関係者にとっては、受け入れ難い結果であった。

こうして、「特区」構想は一旦頓挫することになるが、この過程を経験した与那国町側は、政府の姿勢に極めて厳しい見方をしている。交渉の最前線に立った外間守吉町長は、インタビュー「自立をめざす国境の島、台湾との交流に賭ける」『日経ドローカル』No.92、2008年1月21日、10頁で憤りを込め次のように述べている。

「地方分権の理念も、それを支える武器としての構造改革特区の構想も結構だ。しかし、その理念を役所の実務担当者とは全く理解していない。(中略)

官僚は既得権益を守ることばかり考え、ルールに縛られ、例外を認めようとはしないのだ。離島で暮らす人間が何を求めているのか。離島型特区を理解してくれない。申請手続きやアイデアはすべて一から勉強した。ところがいざ交渉を始めると入口でNOという。「資格がない」「要件を満たしていない」「実績がない」「法律の趣旨との整合性が取れない……」。そんな会話をどれだけ重ねたか。地域社会のために何かしてあげようという気持ちだが、交渉している間、全く感じられなかった」。

また、町役場で「自立ビジョン」の取りまとめを担当し、初代の与那国町・花蓮事務所代表を務めた田里千代基氏(現町議)も、この特区制度への疑問と島の将来への危機感を露わにしている「田里千代基「与那国島の国境交流と自治」『環』第30巻、2007年、245頁」。

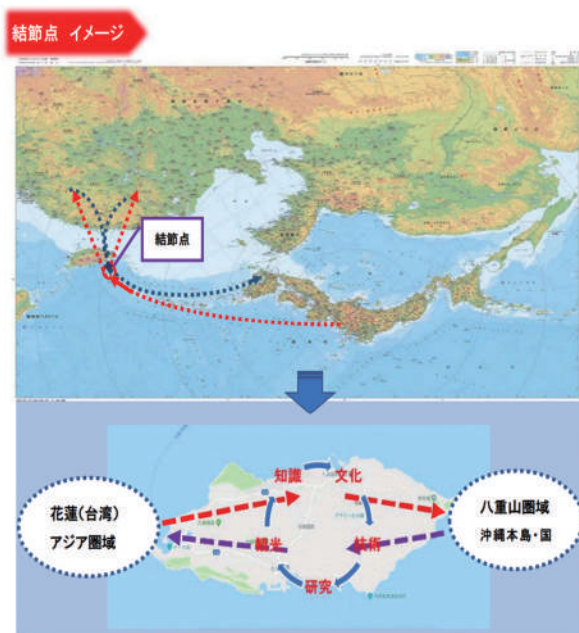
「そもそも地域限定で規制緩和を行い地域の活性化を図るのが特区の狙いではなかったのでしょうか。地域の実情を踏まえないままに、一律の基準を当てはめようとするのであれば、本来の特区制度といえるのか。名前ばかりの制度ではないか。(中略)何度も国の

省庁に足を運びましたが、担当官僚の立場としては、国の基準を超えた構想にゴーサインを出すわけにはいかない、という答えでした。しかしこの特区構想は与那国町にとっては引き下がれない自立へのビジョンなのです。なぜかといえば、この構想が実現されなければ島がつぶされてしまうからです」。

(4)「物から人へ」～国境交流結節点事業の推進

しかし与那国町は、花蓮市との関係強化の努力をその後も継続していく。与那国にとって、東アジアとの経済関係発展は、島の生き残りをかけたものであったからである。台湾側も真剣であった。与那国町と花蓮市は、2006年に「国境交流増大に関する基本合意書2006」を締結し、翌2007年には花蓮市役所内に与那国町連絡事務所が開設される。こうした台湾との交流の積み重ねを経て、2019年度から検討が開始されたのが「与那国―花蓮（台湾）」

国境交流結節点事業の概念図



(出所：与那国町作成資料)

高速船活用国境交流事業」である。同事業は、与那国島が結節点となり、台湾と八重山圏域（さらには沖縄本島、日本本土）の交流ビジネスを通して、島の経済発展を目指す「需要創出型」の地域再生発展プロジェクトを進めるとしている。また、「人」を中心とした交流を柱に据え、「物から人へ」と変化しているのが特徴だ。

すでに、高速船で結ぶための調査を終えており、新型コロナウイルスの状況を見つつ、高速船を無事就航させることが最初の関

門となる。「結節点」機能については、「観光交流」「にとどまらず、「文化交流」「教育交流」「研究交流」「実証フィールド化」「産業交流」などの領域に拡大していくことが期待されている。

おわりに

今年は日中国交正常化と沖縄返還50年の節目であり、両者が交錯する年である。本来祝意をもって迎えるべき特別の年に勃発したウクライナ戦争という戦後最大級の衝撃波は、東アジアへも押し寄せてきている。

万一台湾をめぐる米中が戦火を交える事態に陥った場合、米軍基地や自衛隊駐屯地が集中する琉球弧の防衛施設・インフラが真っ先に標的になる可能性が高い。そしてその場合、海に囲まれた島の住民の避難には多大な困難が予想される。何より日中国交正常化50年の努力が無に帰し、日中関係は破綻の淵に迫り込まれかねない。

「対中抑止のフロンティア」か？「平和の緩衝地帯」か？ 今、この重い問いが、琉球弧だけでなく日本全体に突きつけられているのではないだろうか。

さくらびと

野口雨情と「雨情しだれ」

ほそかわごころ
細川呉港（会員）

1. 詩人の晩年

「赤い靴」「シャボン玉」「七つの子」「證城寺の狸囃子」「青い目の人形」「雨降りお月さん」「兎のダンス」「黄金虫」「船頭小唄」「波浮の港」「あの町この町」などなど——これらの歌は、子どもの頃から聞きなれた馴染んだ曲で、それもある程度、歳を取るとよけいそれらの歌が、懐かしく、またその歌を歌った頃の自分を思い出して、せつなくも悲しい思いにさせられることがある。

日頃これらの詩を書いた人などあまり気にしたことがなかったが、これらはみんな野口雨情の作詞である。子ども心に立ち返って純真な気持ちで、こうした詩を書ける人はすごいと改めて思う。

野口雨情は明治十五年（一八八二年）茨城県の磯原というところで生まれた。

福島に近い茨城県の東北の海岸線にある漁師町である。生まれた家は江戸時代からの名家で、水戸の藩主光圀公もやって来て、海の眺めがいいことから「観海亭」と名づけたという。

雨情家は、幕末明治には、回船問屋をやっていたが、次第に没落。それでも土地や山もたくさん持っていたらしい。雨情は東京に出て、のちの早稲田大学、東京専門学校に入り、坪内逍遙に学ぶ。いろいろな雑誌に詩を発表するが1年半で退学をしてしまう。

父親は村長をしていたが、食道がんのため他界。雨情は家督を相続し、その年、第一詩集『枯草』を出版するが、母親は雨情を「家」の存続のために、栃木県の分限者（お金持ち）の娘と強引に結婚させるのである。雨情はやむなく結婚し、やがて子どもも生まれるが、根っからの放浪癖のため、たびたび家を飛び出した。

その後雨情は詩集『朝花夜花』を二編出版。これは雨情のその後の作風を決定づけた口語による定型詩運動ともいえるべきものであった。さらに詩を各誌に発表しながら、報知新聞の特派員の資格で樺太に行く。帰京後、小川未明、相馬御風、三木露風などと知り合い、坪内逍遙の紹介で今度は『小樽新報』の創刊にかかわり北海道へ。このとき石川啄木と机を並べるが、雨情はすぐに編集長と折りあいが悪く退社。そのあと北海道の新聞社を転々と替わることになる。いずれにしても同じところに長いこと勤められず、いったんは磯原に帰郷し、やがて再び上京して新宿区の若松町に住んだ。二十七歳であった。

雑誌グラフィック社で編集をするかたわら『明星』を発行し、一度は家族と母を呼び寄せるがすぐに、母親が死亡。明治四十四年、再び磯原に帰り、一応家業をついで山林の管理や畑仕事をする。しかし三年後、離婚。その後、福島、北海道、再び福島から水戸へ転々と。福島では芸妓屋の女将と一緒に、ふたりの子どもを託したこともあった。従兄妹を頼って炭鉱の事務所で働いたことも。磯原は炭鉱の町でもあった。

大正七年水戸で作詞家という仕事に理解のある中里つると結婚。この頃から仕



野口雨情

年一九二四年、
四十二歳)、
そしてその後
二十年近く住
むことになる
武蔵野村、吉
祥寺に移転す

事をしながら童謡を書き始める。「枯れすすき」、のちの「船頭小唄」の詩に中山晋平が作曲。以後中山晋平とのコンビが続くことになる。

『金の船』の編集部に勤務のため再び上京。多くの作品を発表する。大正十年に「船頭小唄」の楽譜が発売される。以後「十五夜お月さん」「七つの子」「かなりや」「青い眼の人形」「赤い靴」などを次々に発表。巣鴨に転居。

作詞がヒットすることにより、この頃から、転職、変転を繰り返した雨情の人生が、落ち着いてきた。その後の経歴は一般的によく知られているとおりである。雨情は名実ともに作詞家として世の中に認められ、レコードも次々にヒット。講演旅行も頼まれるようになった。さまざまな雑誌に多くの作品を発表、また童謡などの選者にもなった。雑誌『金の船』の選者にもなる。朝鮮を旅行(大正十三

る(現在「童心居」として一部書斎が井の頭公園に移築保存されている)。昭和元年、佐々木信綱、北原白秋らと日本作家協会を設立。昭和二年台湾を旅行。昭和五年浜田広介、藤井清水らと日本歌謡協会を設立。(藤井清水は私の故郷広島県呉市の出身で、雨情と仲が良かった。実家は今でも残っている)。
そして昭和十六年太平洋戦争開戦である。

雨情は早くから戦争の結末を心配していたのか、住み慣れた吉祥寺を売り払って、田舎への疎開を考えていたらしい。妻つるも賛成。栃木県宇都宮の郊外、鶴田というところの農家を、畑ごと買い取る話を進めていた。一町(三千坪)のイチゴと柿の果樹園、それに二反歩ほどの畑と、築二十年の農家である。農地転用や郷里磯原の戸籍の問題などいろいろあって実際に移ったのは昭和十九年(一九四四年)の一月だった。敗戦の前の年である。もともとその土地で柿の果樹園をやっていた農家が、経営がなかなかうまくいかず売りに出していたらしい。イチゴの栽培は、戦前では珍しかった観光摘み取り農園だったという。しかし、年によっては五月に入っても霜が降りたりしてイチ

ゴがダメになったこともあったらしい。家は羽黒神社がある小山の麓で、北側はすぐ山になっている。周りは広い畑だった。

この頃の読売新聞の栃木版を見ると、雨情一家が地元を越して来たことが微に入り細に入り何度も記事になっている。今では考えられないことだが、こんなことまで書いていいのかと思われるくらい。「疎開」は農村地帯にとっては大きなニュースだったことがわかる。新聞記事によると、

——野口雨情氏が吉祥寺の七八七番地から、宇都宮の姿川村鶴田一七四四番地に引っ越して来た。雨情氏は少し前に脳溢血を患い、身体が少し不自由になっている。子どもは、上の子喜穂子さん(十九歳)は武蔵野高女に通っていて東京に残ったが、妻のつる(四十四歳)が十三歳の存弥君、陽さん(十一歳)、喜代子さん(九歳)、美穂子さん(七歳)を連れてきた——と書いてあるが『野口雨情の生涯』長久保片雲著によると、雨情とつるさんとの間の子は、結婚している長女香穂子(当時二十五歳)、東京に残った千穂子(十九歳)、以下宇都宮に連れてきたのは美穂子(十七歳)、存弥(十三歳)、陽代(十一歳)、喜代子(九歳)、

恵代（五歳）と思われる。

さらに新聞には、一家は仮住いではなく、永久的に農業をするつもりでやって来たことが細かく書いてある。今では、すぐにプライベート保護とかといって、書けないことが多いが、当時は個人的なことでもなんでも書いてある。そして近所の「隣組」の人たちが、とても親切で、荷物や家財道具の荷解き、運搬、そして家の掃除までしてくれたことが強調してある。

疎開してきた都会の人たちや子どもたちが、田舎の付き合いの中で、差別されたり、疎んじられることがないよう新聞で誘導しているのだ。昭和十九年一月二十一日の記事のタイトルは「温（か）い人々の抱擁・疎開は愉し 土に帰る詩人一家」となっている。記事には大きな写真がついていて、存弥君が学校で相撲を取っているもの。田舎の子どもたちとすでに仲良く学校生活を送っているという写真だ。ご存じのように、このころ一般に都会の子が、疎開先の知らない田舎で地元の子どもたちに苛められたというのをよく聞いたものだが、仲良くするようにこのような記事を強調して書いたであろう。

また次の週には、「身にしむ人の親切―果樹園に春を待つ」と題して疎開後の雨情一家の様子と写真が載っている。雨情

が愛嬢千穂子さんと縁側で並んだ写真。近所の子どもも来ている。雨情は着流しの着物を着て娘とともに正座している。

そして何より、詩人野口雨情が、吉祥寺でのこれまでの作詞生活を投げ打って、宇都宮に農民になる決意のもとにやって来たこと。一町ほどの果樹園は、今までそこにいた農民が、イチゴの栽培と、柿の実を採っていたこと。そして残りの二反の畑で野菜を作ること。吉祥寺の家は、印刷会社を買ったこと。

出発の吉祥寺では、三人の人夫が五日かかって二〇〇個もの荷造りをしたらしい。雨情は改めてこんなにも荷物があつたのかと、またこれだけのものが疎開先で必要なかと驚いたという。梱包費と鉄道運賃で、全部で六三〇円かった。

吉祥寺出発前は、荷物を送ったあと何日か、嫁いでいる長女のところに世話になり、宇都宮に行つてから引越した荷物が届くまで何日かの食糧に困るからと、娘に米を三升と味噌、醬油を借りてきたという。しかし鶴田に着いてからは、配給がすぐに受けられ、心配はなかったとわざわざ書いてある。しかし、マッチを持ってこなかったために、煮炊きの火を起すのに困ったことなど、これから疎開をする人のために注意というか、参考

になることもこまごまと知らせている。そして再び、近所の農家の人たちがいろいろと助けてくれてありがたいと雨情氏がお礼を述べている。お互いに助け合う「隣組」だ。また近く長男の存弥君は市立西国民学校に転入することも書いてある。いずれにしても、六十二歳の雨情が決心したことは、あくまで農民になり、自給自足もいとわぬという決心である。

同じような疎開人を私は前に書いたことがある。戦前東京で、安達流生け花（插花）で二世を風靡した安達潮花である。娘はのちにマスコミでもたびたび登場する安達瞳子である。安達潮花は疎開とともに、もともとの出身である広島県呉市安浦町の浄念寺に帰り、本格的に、近所の田畑を買い取り、近隣の人たちを集めて「集団農業」を始めた。それまでの都会での生け花の学校などをすべてやめたのである。潮花は農民になりきった。のちに多くの東京にいたかつての弟子たちに促されて、数年後にやっと帰京したが、戦後、他の流派がいち早く進駐軍の高級将校の婦人たちを取り込んで宣伝したのに比べ後れをとった。そのために安達流生け花の家元としての東京復帰がなかなか思うように進まなかったのである。「桜人」桜

と椿の物語―安達潮花と瞳子、親子」（未発表）。戦争中の疎開、帰農もいろいろなパターンがある。

新聞はまた、二か月後に（三月二十七日）、野口雨情家について報じている。今度は年長の存弥君が中学校に合格したという速報である。題して「お友達早くおいで、目方も増えた、野口君は中学へ合格」という記事である。

――存弥君が（東京の）武蔵野第四国民学校から、宇都宮市立西国民学校へ転校してから二か月あまり。血色も目立ってよくなり、体重は一キロあまり増えた。転校時は鉄棒も、ぶら下がるのがやっとだったが、宇都宮中学の体力検査では、足掛け上がりなど楽々とやってのけ、ついに入学の栄冠を勝ち得たのであった――と。

そのほか新聞には、各県の疎開に来た人たちの動向が書かれていて、有名な名士や軍人のお偉いさん、歌舞伎の名優などが、紹介してある。

「家、食料も万全、畑まで用意、疎開に高まる地方の戦友愛」と題して、栃木、群馬、茨城、千葉、埼玉など各県の状況が述べてあり、栃木県は雨情のほかに、歌舞伎の市川猿之助、文壇の山本有三が一家を挙げてくることになっているとい

う。それぞれの県が受け入れ態勢を整えているという話だ。

その後、栃木県に疎開した人は二万八千名に及んだが、疎開人にもまた国を挙げての増産の戦列につかなければならないと、野口雨情を隊長に、山本有三、大木敦夫などを幹部に、全国に先駆けて、「疎開者勤労挺身隊」を結成、勤労奉仕のほかに、文化の面からも農村と工場に「出勤」することになったと報じられている。

栃木県は県を挙げて勤労奉仕、戦意高揚に取り組んでいるのである。それを煽るのが新聞と、そして「世間」であった。

脳溢血を経験し、足が不自由だった雨情。都会の生活を投げ打って自然の中で「帰農」を目指してやって来た雨情は、こうした世の中をどのように見ていたのであろうか。五人の子どもを抱えて、妻つるは畑を耕し、足の不自由な雨情は縁側でボーッとしていたこともあったという。

しかし、昭和十九年の一月末に宇都宮の鶴田に引っ越して来た雨情は、そうした決戦体制の中から、ちょうど一年目、翌二十年一月二十七日に亡くなっている。敗戦の七か月前であった。六十二歳であった。

空の真上の お天道さまよ

宿世来世を 教えておくれ

今日は現世で 昨日は宿世

明日は来世か お天道さまよ

遠い未来は 語るな言ふな

明日という日を わしや知らぬ

昨日暮らして 今日あるからにや

明日という日がないぢやない

空の真上の お天道さまよ――

死後、ノートに書かれていた遺稿である。未完であったかもしれない。雨情は「銃後」の騒がしい世の中で、ひとり自分の死を見つめていたのかもしれない。

雨情の葬式は随分寂しかったという。まだその頃は人家もまばらな農村地帯。十八戸の「隣組」の人たちが何人か集まって葬儀は行われた。八月の敗戦間近、食料もモノ不足も一番底をついたときで、疎開して来たときはあれほど新聞で騒いだのに、皆が自分の生活でそれぞれでなかった。

家から鹿沼街道を東に行ったところに塩釜神社があり、その宮司が呼ばれ、自宅で神式の葬儀が簡素に行われた。その後「隣組」の誰かが、どこからかやつと探して借りてきた小さな荷車に、棺桶は乗せられた。そのとき、棺桶の蓋を開

じるための釘がなかった。それで縄で縛ったという。その上から、羽織がかけられた。つる夫人は、着物を着たままやはり「隣組」の若い人の自転車の後ろに乗って、荷車のあとをゆっくりと畑中の道を戸祭町の火葬場まで運ばれていった。自転車の空気がほとんどなく、パンクするのではないかと心配したという。当時はまだほとんどの家が土葬だったが、雨情だけは火葬にした。このとき、近くの今泉町の興禅寺の住職、石川暮人が、僧衣ではなく国民服にゲートルを巻き、その上防空頭巾をかぶってお経を読んだという。石川暮人は若山牧水の門下であり、歌人としても有名で、雨情との付き合いもあり、雨情の書や軸をたくさん持っていたという。

雨情は実に多くの人にたくさん思い出を残している。一九七三年に金の星社から出された『みんなで書いた野口雨情伝』を読むと、多くのエピソードと、そして誰にも愛されたその人柄がよくわかる。

本場の絶筆は

「今日も畑で わしゃひとり」
だと、書いている人もいる。

また前出の『野口雨情の生涯』によると、ある日座敷で休んでいる雨情のために、つる夫人が羽織を着せかけようとす

ると、

「死んで行くのに羽織などいらぬ」と断ったというエピソードも。

多くの想い出を周囲の人に残した人である。

2. 「雨情しだれ」の発見

四年ほど前のことである。毎年、全国の桜の名所を回りながら行われている「桜シンポジウム」のときだった。東北の二本松か、あるいは翌年の越前の高田でシンポジウムが行われたときであつたらう。毎回、夜のパーティーでは参加者全員が集まって親睦会が行われる。大きな会場で、地元のお国自慢のさまざまな出し物やコンサート、特産の名物料理などがふるまわれるが、その騒がしい中で、たまたま名刺交換をした人が東京の桜のグループの人で、「東京多摩日本花の会」「くにたち桜守の会」を率いて団体で参加したリーダーのひとり中原修さんだった。

わずか一分にも満たない名刺交換だったが、彼の言った言葉を私はずっと忘れなかった。「国立の私の家の自宅横の空き地（本当は車の通らない通路だが）に、『雨情しだれ』を植えているんですよ」と。しかもその横のJR中央線にそった

道にも雨情しだれを八本ほど、都合十本植えていて、まだ公式には認められていないが、その道を『雨情通り』と呼んでいるのだという。

その中原さんに会ってから三年目の二〇二一年、私はやっと念願の「雨情しだれ」を、コロナ禍の中、非常事態宣言の前に見に行くことができた。昨年はコロナ禍で全く桜見学ができなかったからである。今年こそはという思いだった。彼は私のことを全く忘れていたが、そこは同じ「桜屋」、すぐにぜひ見にいらいっしょいと大歓迎だった。

自宅横の通路にある「雨情しだれ」は二本、しっかりと間隔をあけて植えられている。高さは五メートル、まだ植えて五年というだけに白っぽい幹は直径九センチから十一センチほど。しかし目の前に垂れ下がった花は見事だった。つぼみと白い花びらの外側はピンク、しかも八重の花びらも大きく、まるで造花のように立派である。これは鑑賞用としても十分に堪える桜だ。自宅の庭には、「旭山桜」が鉢から地面に降ろして二メートルほどに成長して、これも今を盛りとたくさんの花を付けていた。きれいだっ

「雨情しだれ」は実生の「八重紅しだれ」から、または八重紅しだれが、突然



「雨情しだれ」の花

変異による「枝替わり」でできた品種ではないかという。目の前に垂れ下がる花をたくさんつけた枝に対して、幹の上のほうから新しく出たしだれる枝が、左右に自由に伸びている。

「いやあ、枝が暴れるんですよ」と中原さん。その都度誘導しなければならぬらしい。それにしてもは目の前に垂れ下がっている花は見事だ。

横の通りの「雨情通り」の桜も立派だった。これらが大きくなるとどうなるか楽しみでもある。

しかし、いったいこの桜は、なんで「雨情しだれ」と言うのか。雨情との関係は？私が前から疑問に思っていることだ。雨情の桜の歌も私は聞いたことがない。

しかし、のちに旧知の「秩父雨情会」の会長武内優さん（東文研会員、88歳）

によると、「雨情が作品に取り上げた植物の中では、桜が一番多いのだという。武内さんは『定本・野口雨情』の本の一卷から五巻までをすべて渉猟し、植物名をリストアップ、数を数えた。それによると、「桜」は百九十九か所、次に多いのが「花」で百六十五か所、続いて「松」百五十四か所、「藪」が六十一か所、「梅」が三十九か所、「柳」が二十八か所などで、圧倒的に桜と花が多いのだ。

中原修さんが言うには、この木はもととは宇都宮の鶴田というところの雨情の旧宅にあったのだという。それを「日本花の会」の結城農場で接木、育成した。例の、雨情が敗戦の前の年、吉祥寺の自宅を引き払って、引っ越した「帰農居」である。それだけしかわからなかった。そこで、いろいろ聞き取りをしていくと――。

「雨情しだれ」を「最初に発見」したのは日光植物園（正式には東京大学大学院理学系研究科付属植物園。都内の小石川植物園の分園である。小石川植物園は徳川綱吉の葉草園がもとで、分園の日光植物園は明治三十五年にできた）にいた主任の久保

田秀夫である。

久保田秀夫（故人）は、もともと長野県塩尻の片丘国民学校（戦後は片丘小学校）の教員で、植物が好きだった。山梨の県境でリンドウの新種も二種発見している。

久保田はまた桜では有名な人で、主に原種の研究と育成をした人。それまでに「発見」した桜は、教員時代に見つけた「片丘桜」、のちに移った栃木県の小山の修道院で十月桜の実生の中から、変わり種を見つけた「思川」である。十枚の花弁をもつ美思川桜は今では小山市の花として、市内各地に植えられている。東京の神代植物園にも一本あり私も何度も見たことがある。

その久保田が発見した片丘桜にはよく知られている有名な逸話がある。ちょっと横道にそれるが紹介すると――。

久保田が、あるとき庫裏平（長野県塩尻）の学校の学有林で高さ五十センチほどの小さな桜を発見。小さいながらも花をたくさん付けていた。桜はふつう四、五年して四メートル以上にならないと花は咲かない。それなのに小さいまま、たくさん花が咲いていた（早く咲き始める桜は牧野富太郎が高知県佐川で見つけた「稚木の桜」がある。発芽後三年もしな

いで開花する)。

花びらはやや細く星形、桜は普通開花後赤化するが、この桜は咲き始めの白から、極端に花全体が赤くなるまるで別の桜のよう。

周りにはカスミ桜の大きな木がたくさんあるから、その影響で(混血して)新しい桜ができたのかもしれない――。

戦後、久保田は塩尻から松本に異動。このときその新種かもしれない桜を、鉢植えにして松本へ持って行った。その頃待望の長男が生まれた。長男も植物が好きで、幼いときから桜の絵をたくさん描き、あるときはクレヨンでサクラの根の周りに埋めて、いろいろな色の花を咲かせようとしたこともあったらしい。新しい桜の申し子だと久保田は思った。久保田は間もなく、日光の植物園から誘いがあり教員をやめ、研究員として転職。息子の可愛がった桜も一緒に持って行ったが、長男はまもなくはよりの疫病にかかり六歳前に急逝してしまった。久保田の悲しみは尋常ではなかった。

それから三年目に、桜はカスミ桜から派生した新種として認定された。国立科学博物館の大井次三郎が命名した。それが片丘桜。学名は *Prunus verecunda f. Morioi*。ノリオイとこうのは幼くして死

んだ久保田の長男の名前・詔夫^{のりお}から名づけられた。恩師大井次三郎の久保田への思いやりだった。塩尻の学有林で久保田が発見してから九年目のことだった。

原生地塩尻の庫裏平は、その後一九六〇年に山火事となり、何本か残っていた片丘桜はすべて焼失したが、ずいぶん後になって久保田が日光植物園に持って行った一本があることがわかり、絶滅は免れた。一九九一年には久保田先生の塩尻の教え子たちが保存会を作り、挿し木をして増やしている。今塩尻の市庁舎には片丘桜が三本植えてあり、高ぼっち(元の学有林)には片丘桜の碑が建ち、周りに片丘桜が植えられている。

さて、宇都宮、鶴田町の野口雨情の旧家の現在の持ち主、稲毛登志一さんの記憶によると、確か昭和五十五年頃、日光植物園の久保田先生が桜を見にやって来て、これは「新しい桜」かもしれないと言った。先生はまた次の年もやって来て、今度は桜の枝をいくつか持って帰ったのだという。

実は、野口夫人つるさんから土地と家屋を買ったのは、稲毛登志一さんの

お父さんで、昭和三十一年(一九五六年)のことであった。

つる夫人は夫・野口雨情に死なれたあとも、鶴田に残った。

戦後も五人の子どもと、二人の親戚の人と八人暮らしで、畑を耕して文字どおり自給自足の生活をしたが、十一年後、ついに土地と家のすべてを売って、再び東京の吉祥寺に帰って行ったという。夫に死なれ、たくさんの子どもを抱えて、女ひとりで敗戦後の暮らしは並大抵の苦労ではなかったと思われる。野口雨情の伝記や思い出の書はたくさんあるが、このつる夫人についてはあまり書かれていない。あるいは雨情以上に、一人の女として、波乱と辛苦の人生を送ったのであろう。雨情と同棲してからも籍が入るまで十七年もかかっている。雨情の実家の戸籍の問題もあった。

「土地の値段は相場場で変えられないにしても、家だけは、雨情が住んでいたというところで、できるだけ高く買ってくれ」と稲毛さんの父親に頼んだのだという。つるは吉祥寺では、元住んでいた家の、今度は駅の反対側に中古の家を買った。

その後、つるが死んだあとも、長男の存弥が死ぬまでそこにずっと住んでいたという。

野口雨情の家を買った稲毛登志一さんの父親は、戦前は東京で証券会社に勤めたこともあり、宇都宮に帰ってから、早くから雨情の旧家の価値を認めていた人ではないかと思う。敗戦後、日本が復興していく中で、三菱重工のトラックや重機の販売の代理店をしていて、景気が良かったという。その頃とはいえ、なかなか一町歩の土地と家を買えるものではない。その後三菱重工が二つに分かれ、重機の三菱キャタピラーと、一般の乗用車を売る二つの会社に分かれたとき、代理店契約を打ち切られたという。

栃木県立博物館に残る久保田秀夫の桜の採集記録によると、昭和五十四年（一九七九年）四月二十八日に初めて宇都宮の野口雨情の旧家にやって来て雨情しだれを見ている。しかも同じ年の九月二十九日にも再びやって来た。採集地は宇都宮鶴田嵯峨野ホテルとなっている（日光植物園の清水淳子先生の調べによる）。これは稲毛登志一さんに確認すると、父親がそれまで、同じ敷地内で旅館をやっていたと。その名前が嵯峨野ホテルだったという。実際には旅館は二年前にすでに廃業していたらしい。

息子の稲毛登志一さんが同じ敷地内で、

新たにお菓子屋を始めたのが昭和五十五年八月なので、五十四年に久保田秀夫先生が来たときは、まだ父が元気で、父親が先生に対応したのだろうということだった。

久保田秀夫の三回目の訪問は、昭和五十五年（一九八〇年）九月十二日。四回目目は昭和五十六年四月十九日である。今度は採集地は鶴田町とだけ書いてある。この二回の訪問は息子の稲毛登志一さんが会っている。とにかくまじめな先生だった。

野口雨情の旧宅は、もともと羽黒山（神社がある）の麓の畑に囲まれたところにあり、後ろは屋敷森に囲まれて風情のある農家だった。それが鹿沼街道の都合二回もの道路の拡張にあり、二回とも家を移動したのだと言う。家を持ち上げて、ウインチで引っ張り移動した。今では道路沿いにあり、後ろは神社のある山だが、前は今では店ごと貸している菓子屋の広い駐車場で、木々と畑に囲まれた昔の家の雰囲気は失われている。

雨情しだれが、いつから雨情邸に在ったかはわからない。稲毛登志一さんの記憶によると、おそらく雨情がここに引っ越して来たとき、近所の農家の人々が、桜の木も数本持って来たか、あるいはもとか

らあったのかもしれない。それは「八重紅しだれ」だったが、そのうちの一本が、今までとは違った蕾は濃いピンク、開花するに従って白くなる大ぶりの花を咲かせたのだという。今までにない見事なしだれで、南に面した雨情邸に向かって、右側。それも少し手前に植えられていた桜だという。これが初代の「雨情しだれ」の原木だった。

その頃に撮った写真を見せていただきたい。宇都宮雨情会編『石に刻んだ雨情の心 野口雨情詩碑集』という冊子の表紙になっている。カラー写真だが記録はそれしかない。確かに垂れ下がった今の雨情しだれ（国立の中原宅）と同じ花が咲いている。この桜が原木で、その枝を久保田秀夫が持ち帰ったのだが、その後、道路拡張で家を移動したとき、桜も家に向かって右側横に移したが、これが枯れてしまったのだという。原木はもうない。しかし、幸いなことに、久保田先生がすでに持ち帰っていて、雨情しだれはなくならないですんだ。

久保田先生は、持ち帰った雨情しだれの枝を、日光植物園で挿し木か差し芽をして育て、その後、その苗木を持って、稲毛登志一さんのところに来た。かなりたくさんの挿し木をしたが、そのうち五六本しか着かなかったという。その貴重



3代目「雨情しだれ」

な一本を元の古巢の宇都宮の旧雨情宅に持って来たのだ。これが二代目である。しかし残念なことにこの桜も間もなく枯れてしまった。したがって現在の家の左手横にある「雨情しだれ」は三代目である。十二年ほど前に植えたもの。茨城県の「日本花の会」の結城農場から来た。

稲毛さんによると、この桜は他の庭桜と同じように体質が弱く、現地言葉で「ほろし」という黄色と黒の縞模様の毛虫がたくさんついたり、また病気になるたりするのだと。出入りの植木屋もいろいろな肥料を混合してやつたりして苦労しているとも。

三代目の桜は、二〇二一年四月二十日、すでに葉桜だったが、青々として葉もよく茂り、元氣そうだった。十二年前に植えたもので、高さは一度切り詰めたので

四メートルほど、幹の太さは二十センチあった。何とか無事に大きくなってほしいものだ。

「だんだん、年ごとに花が咲くのと同時に葉が早く出てくるようになり、これは山桜に雨情桜を接木したからではないか」と稲毛さんは言う。台木の性格が継がれた桜に出るのだと――。

久保田秀夫はその後「雨情しだれ」を、日本花の会の結城農場に持ち込み、そこで大量に差し芽をした。結城農場には田中秀明場長という接木、差し芽の名人がいて、素晴らしいスピードと手つきでナイフを使い、たくさん接木、差し芽をする。今では雨情桜はすぐに注文に応じるほど苗木があるらしい（一年物だと百本位はある）。

地面に着くほどの垂れ下がった枝は花付きもよく、密生し、造花かと思えるほど見事な花だ。花びらは四十五枚から五十枚。花は平開し、萼頭は皿状である。ただし、課題は「暴れる」枝である。幹の上のほうの新しい枝は、とにかく弦のように自由に、右に左に伸びる。この枝を、うまく誘導しなければならぬ。逆に考えれば、誘導の仕方によっては、新しい雨情しだれの樹形が創造できるともいえる。とにかくまだまだ未知の桜であ

る。これからが楽しみ。この桜を今後、世間がどう評価するかが見ものである。結城農場の場長田中秀明さんに言わせれば「万葉の時代から続く日本の桜の歴史の中で、十九世紀に誕生した染井吉野はさしずめ本墨打、何しろ日本中の桜の八割が染井吉野だから。続いて今、全国的に広がっている早咲きの河津桜は二墨打だ」と。それに続く桜はいったい何であろうか――。

今年（二〇二二年）東洋文化研究会の春の桜ツアーは、国立の中原修邸に雨情しだれを見に行った。ちょうど花も満開で、やっぱり華やかで美しい。ところがそのあと、雨情しだれを最初に発見したのは日光植物園の久保田秀夫だが、「雨情の生家から新種かもしれないと、見たことのない桜の枝を採って久保田先生に送ったのは私だ」と言う人が現れた。子どもの頃から生家の近くに住む県立宇都宮中央女子高校の高松祐一という先生。2万坪の校庭に二十年以上かけて一時は百種以上百五十本の桜を集めた全国でも有名な「桜校長」である。またそのあと、筆者は、茨城県磯原の雨情生家に行き、孫の野口不二子さんに会った。こちらも意外な話が――。これらのことはまた機会があればお話しすることにする。

ようよう
陶々俳壇

会
句
結
果
陶
陶
2021年9月

兼題 「白粉花」「踵」 馬場由紀子選

白熱の無客パラオリ秋立ちぬ 橋本紅杓

ワクチンの接種待つ身に酷暑かな //

黒南風に藍を揺らせて濃紫陽花 //

○善一 季重なりが気になりましたが、景の美しさをい
だしました。

名月やわが影正す一本道 伊藤正堂

○善一 月の明きと真直ぐな影に清々しさを感じます。
一本道をたずら歩いていてと頭上には美しい
十五夜の月。己が影が濃と映る。

○田紀子 月の明かりに己が影が伸びている。その影は一
本道を歩いているのだ。まさにこの句は、作者
の来し方言ひ表しているようだ。

同窓簿亡多くつき秋思かな //

○紅杓 //

莫座に寝て流れ星待つ兄弟 //

○正子 //

無花果や母と娘のピリピリ語 松島二三四

○田紀子 フリピン人の母のために娘は言葉の使い分けを
しているのだ。これから益々このような景は
増えてくるだろうし、私たちも柔軟に受け入れて
いく必要があるだろう。この母娘に優しい視線を
投げかけている作者が窺われる。

特養の敷地に沿って白粉花 //

○正子 この句のお白粉花に心惹かれるのがあります。

○善一 特養老人ホームの敷地に沿って可憐な白粉花が咲
いている。車椅子のお年寄りたちが楽しんでいる。

秋暑しミユールの踵折れたまま //

○紅杓 猛暑続きの夏に活躍したミウル。その踵が折れ
たままである。直すのか捨てるのか、決めかねて
いる。「踵」の兼題でここまで物語性のある句を
作れるとは凄い。

秋気澄む七聖人の碑の清し 大内 善一

○紅杓 //

白粉花参道ふさぐこと咲けり //

○田紀子 海外句だろうか。

○善一 稲妻や子らはちりぢり駆け帰る //

夕風に水打つ父の踵かな 日野正子

○田紀子 海に近い住まいでしょうか。夏の夕方、海からの
風がびたりと止まり息が詰まる暑さの中、老いた
く想像 父が打ち水をしている。背中が少し丸
くなり、ふくらはぎも細くなったよう。下駄履き
の踵の周りで、打たれた水が跳ねて音を立てる。
庶民の暮らしをテーマに撮った写真の一枚を見るよ
うです。踵に焦点を当てたところが見事です。
下駄をはいた父の踵の水打つ動きが眼から離れない。

○善一 この場合の季重なりは気にならない。父は下駄を
履いているのだろうか。踵の太さに父の頼もしさ
を重ねているのかも。

○田紀子 //

百日紅いよいよ紅し甲子園 //

○田紀子 甲子園に百日紅が咲いているのかどうか、私は知
らない。しかし、若き弾ける熱闘ぶりがこの句か
ら伝わってくる。

ウォンウォンと籠る蟬山遠のきて //

○正堂 秋の隅び寄る蟬山の時雨が遠のく様はもの悲しい。
上五中七でぐっと惹きつけられたのだが、下五で
焦点がぼやけてしまったのが残念。

白秋や明日を生きぬく手を洗ふ 馬場由紀子

○紅杓 コロナ禍を直接表せず間接的に言いまわしで
「明日を生きぬく」とした点が面白い。「白秋」は
中国四元論（青春、朱夏、白秋、玄冬）によると
いわれるが上手く上五に当てはまる秋の季語を持っ
てきたと思う。

◎三三四 長い自粛生活、常に頭を離れないコロナ対策に折
れそうになる日々。秋の気配に少しほっとし、今
日も手をしっかり洗いながら、明日に向けて心を
奮い立たせる。「白秋」が効いています。

正座する踵美し生身魂 //

○正子 若妻の和服の正座姿の特に美しく見える踵に眼が
行くのだ。

小太りの案山子と交はすシンパシー //

○三三四 作者もふくよかな体形でいらしやるのでしょうか。
収穫を控えた田んぼで、雫たちのつまみ食いに見
みを効かす役割の案山子なのに、この田んぼの
案山子は小太りで迫力に欠ける。「お前も頑張れ
よ」と掛けける作者の声が聞こえてきそうです。

【連句遊び】

今回の句を使って連句遊びを試みました。すべて投句されたもの
を連句に直したもので雑の句はありませんが、付けの楽しさは
味わっていただくと願っています。

非懷紙八句「無花果や」

無花果や母と娘のピリピリ語

パラオリ秋を暑くしてをり

莫座に寝て兄と弟月を待ち

一本道に正したる影

特養の敷地に沿ひて囲る川

父が水打つころの夕風

空手形喰らつてばかり冷素麵

ミユールの踵折れたまんまで

花いよよ満開となり上野山

うららうららと参道の風

(満尾)

中国

ウエックシク

編・訳 上松玲子

子を産まぬ妻訴えられる

子どもを産むことを拒否した妻を夫が権利の侵害だ訴えた。妻は再婚で前夫との間に娘がいる。妻が避妊手術をしていた事実を知った夫は回復手術を求めたが妻は拒否、夫は重慶市同潼南法院に慰謝料15万円を求めて訴えた。

裁判所は出産は結婚の必然的結果ではなく、女性が出産の道具でもない、さらに産む権利も生まぬ自由もあるとした。また、成人した義理の娘は、夫の老後の扶養義務があり、老後の抛り所もあるとして、訴えを退けた。

担当裁判官は子どもを持つか持たないかの問題について男女の権利は平等だということ、両者の権利が衝突した場合は、出産や子育てにおいて大きな義務を負う女性がより保護されるべきであることを指摘している。

『法治日報』2022年12月31日

動物病院急成長の秘密

人間の病院同様、動物病院の診療費の高さや、病院選びに悩む声は多い。だが人間の患者と医師とのトラブルは多くの場合医療資源の不足に起因するが、動物病院は不足していない。現在ペット3500匹に1つの動物病院がある。人の病院は人口4万1千人に1病院だ。

上海市の『動物診療機構管理規定』によれば200平米以上の広さに手術台とX線検査機、超音波検査機などの機器、4人以上の獣医師資格保有者がいることが、動物診療許可証取得の条件となる。ペット関連のフランチャイズチェーン「派多格」のマネージャー劉強氏によれば、上海の基準は国内でも厳しめな

ため、ほとんどがチェーンストア経営だそう。同社の場合50万円で、店の内装、医療設備、本部から専門家の派遣を行い、開業後年間管理費を払えば、獣医師の研修なども請け負う。

まるでタピオカティー店を開くのと同様の手軽さで、書類さえそろえば年間200万円の利益があがるという。鍵となる4人の獣医師の確保もチェーンならではの解決方法がある。獣医師をしていない免許保持者から名義を借りるのだ。

潘さんは3年前上海の動物病院チェーンの獣医師だった。毎朝病院の入り口で同僚たちと「1日5千、明日は1万」と営業目標を叫んだものだという。

2017年当時、上海で大型の動物病院チェーンが急拡大すると、業績管理も厳しくなった。単なる消化不良が疑われる犬でも理論上脾臓炎の可能性があれば、尿検査、血液検査、X線検査をして、異常がなければ超音波検査、さらに脾臓の値を測り、理由を見つけて、注射、点滴を

するというのが、通常の流れだった。飼い主が訝れば「動物は痛くても話せないですから」という魔法の言葉で、千元の検査費がとれたと、潘さん。

結局1回の診療費が合計3千元以上になっても、飼い主の多くは安心を買ったつもりになる。実際は確定診断につながらない検査もある。

獣医師は病院の門をくぐるや歪んだ査定奨励制度に組み込まれていくのだと潘さんは言う。

『南方週末』2022年1月6日

違法な別荘が安泰なわけ

山東省済南市南部の山間部は泰山山脈の一部で、大自然と水源を育む重要な地域、済南湧水地域の地下水供給源である。ある時期から都市の人々がそこに押し寄せ別荘を建て始めた。驚くべき数の別荘が山を覆い、地面の硬化が進んだために地下水の供給源が破壊され湧水流の存続が危機に晒されている。

中央政府環境保護監察グループの継続的な監察業務により、2017年から違法建築撤去の

嵐が巻き起こる。しかし4年経過した現在、一部の別荘は撤去されたものの、なお数千棟が残る。さらには新しい別荘群が建設されているのだ。

全国主要飲用水水源名鑑にもある臥虎山ダムの西南に位置する楊爾村を取材した。山の半分の緩斜面が開発され段々の整地の上に約380棟の別荘が麓から中腹にかけ整然と建てられ、山の半分は木々に覆われている。

地元の農民は、樹木より先に別荘が育つため息をつく。一体誰の持ち物なのか。2017年5月濟南南部山区管理委員会の責任者が明らかにしたことに

は、別荘の持主は所謂富裕層ではなく、社会的地位のある人即ち各界著名人、企業家、芸術家だそう。地元の農民の話によれば、多くが政府幹部だという。

臥龍山北斜面の12棟は省市体育関係部門の幹部、青楊峪村の豪華な8棟は郵政部門、九頂塔民族風情園付近の李家塘村にある18棟は教育部門、郵電部門関係、錦繡川ダムの西北にある数

十棟の別荘やマンションは省の民政庁の幹部、ダム北岸の十数棟は省や市の公的事業単位の幹部、西宮村の10棟は某大型石油工場と、きりがない。

南部山区の下部、5つの街道弁公室を管轄する南部山区の総合法執行局法執行大隊の宋衛明大隊長によれば、現在市に5つの違法別荘街について通報しているという。地元ではその場しのぎで一部を対象にした取締りを行っても、多くの別荘が対象外となり、その結果無罪放免のお墨付きをもらうことになるという声が聞かれる。

『経済参考報』2022年1月13日

口コミサイトの暴力

ある口コミ・レビューサイトで「病院」を検索すると、大型病院、専門病院の名がずらりと出てくる。病院名の下に5つの星が病院につけられた評価だ。評価は概ね悪い。

劉鑫さんの勤める大型病院の星も2つだ。患者の評価は施設の老朽化や医療従事者のミスなどへの意見は病院の改善に役立

つが、一方で医者が多すぎる、待ち時間が長いというだけで星1つという場合もあり、あまり公平ではないと感じている。

江彦さんの病院も星2つだが、医師の態度とりわけ診療時間の短さが低評価の理由とされることに注目している。甲狀腺が専門の江さんは週4日午前中診察に出ている。1日の患者は40人ほど、それを8時から12時までに応対しようとすれば1人当たり6分平均になる。実際は検査後に再度診察する人もいるのでさらに短くなる。

評価の中で実名を曝され罵倒される医師もいる。医師の盗撮動画まで貼り付ける者もいる。かかる行為は名誉棄損、プライバシーの侵害になる。中国政法大学伝播法研究センターの朱巍副主任は民法でも医療従事者の保護は明確に定められていて、医療の秩序を乱し、医療従事者の業務や生活を妨害し、権利を侵害した場合は法的な責任を負わねばならないし、刑事罰を受ける可能性もあるという。

人口構造の変化

『法治日報』2022年1月18日

中国の人口増加は鈍化している。2021年末の人口は14億1千2百60万で昨年比48万人増、自然増加率は0・34%と国務院新聞弁公室1月17日開催国民経済運行状況発表会で発表された。65歳以上の高齢者人口は2億人を突破、総人口の14・2%を占める。一方16歳から59歳の労働年齢人口は昨年8億7千9百万人から8億8千2百万人と微増したが、これは1961年の出生数の落ち込みに起因し、退職者が新たに16歳になる人口を下回ったためである。

また、想像以上に都市化が進み、国家統計局のデータによれば2021年の都市部人口比率は64・72%で、農村人口は1995年の8億5千9百万人から現在は4億9千8百人に減っている。人口増加の鈍化の背景には人口構造、高齢化、都市化の進展などがあり、変化に対応すべく政策上準備が必要だ。

『新京報』2022年1月17日

力会通信

◆第11回定時社員総会の概況 報告（5月25日開催）

現時点で詳細を述べることはできないが、主な概況は次のとおりである。

午後2時半の定刻に事務局長が出席状況を報告した。会場への出席者は29名、書面出席が77名、委任状が3名、合計109名である。本年3月末の正会員は152名、過半数は77名、したがって定款第18条に照らして有効に成立したことを報告した。

決議事項

- 〔1〕 令和3年度事業報告（案）
- 〔2〕 令和3年度決算（案）
- 〔3〕 理事5名選任の件
- 〔4〕 監事1名選任の件

右記4件は原案通り可決した。

報告事項

- 〔1〕 令和4年度事業計画
- 〔2〕 令和4年度予算
- 〔3〕 顧問・諮問会委員の改選

上記3件について担当常務理事および会長より報告した。

（事務局長 竹前栄男）

同好会だより

〈一石会（囲碁）〉

対面での例会を再開する予定です。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

〈俳句会〉

馬場由紀子先生のご指導で、対面と通信と並行して開催いたします。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

〈謡曲会〉

松本千俊先生のお稽古は一人ずつの個人指導です。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

みんなの写真館

高知県北川村「モネの庭」(表紙)

先月、高知県北川村「モネの庭」マルモッタンを訪れました。印象派の巨匠クロード・モネが43歳から生涯の半分を過ごした、フランス・ジヴェルニーで丹誠込めて作り上げた「モネの庭」を再現した庭園です。ジヴェルニーの庭は彼の創造の源泉となり、「睡蓮」などの多くの名作を生み出す舞台となりました。この写真はその「睡蓮」という絵を再現したところで撮ったものです。

（姜晋如）

秘境の湖北省十堰の第二汽車廠（東風牌）訪問記録（表4）

1985年2月3日（日）平産業・富山機械）合併会社を率いる松本社長・技術者同伴の上、小生は通訳として同行、外国人未開放地区の十堰第二汽車廠（東風牌）を訪問しました。当時の世界情勢は196

2年2月キューバ危機で米ソの核戦争が回避され、毛主席は将来に備え「備戦・備荒」を国策として、基幹産業の内陸部への移転が実施されました。特に第二汽車廠は湖北省北部山岳の十堰市に、山洞工場が建設されていました。北京の中央政府第一工業部の特別許可が出て現地訪問が実現しました。北京から特急列車、西安經由成都行き途中駅十堰は自動車工場専用駅でした。

主に東風牌の軍用ガソリン・トラックが生産されていました。提供したエンジン加工機械設備の運転状況とメンテナンスについて、現地での指導と見学は順調に終了しました。不便な十堰の工場は、鄧小平時代に平野部の湖北省襄陽市に移転しています。この地は三国志で有名な「諸葛亮孔明」や「孟母三遷の教え」で有名な場所。旧古名は「襄樊」シャンファンと呼ばれたところ。 （新宅久夫）

2022年7月の行事予定

- 7日(木) 13:00 公開 第7回オンライン講演会 (Zoom方式で実施)
「梅屋庄吉と日中人物交流と背景」
小坂文乃氏 (日比谷松本楼 代表取締役社長)
- 13日(水) 13:00 俳句会
兼題「トマト、帰」及び当季雑詠から5句を投句 (6月末までに)
- 19日(火) 16:00 謡曲会 (松木先生お稽古)
- 27日(水) 14:00 公開 【善隣古海塾】 (Zoom方式で実施)
塾長: 古海建一氏 (当会最高顧問)
- 28日(木) 14:00 公開 第8回オンライン講演会 (Zoom方式で実施)
「ウクライナ戦争と中国の立場」
矢吹晋氏 (横浜市立大学名誉教授、当会学術顧問)

7月の会議予定

5日(火) 13:00	国際交流委員会	21日(木) 13:00	理事会 (第5回)
12日(火) 13:00	環境委員会	21日(木) 15:30	広報委員会
19日(火) 12:30	講演委員会 (Zoom)	27日(水) 14:00	東北委員会

※下線は通常日程に変更あり。

参观中国二汽留念

一九八五年 二月 三日



みんなの
写真館

ISSN 0386-1034
二〇二三年（令和四年）七月一日・毎月一日発行

「善隣」第五二六号（通巻七九三）

発行所

〒一〇五-〇〇〇四 東京都港区新橋一五五
一般社団法人 国際善隣協会
電話 〇三-三五七三三〇五（番代表）

INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)

<https://www.kokusaizenrin.com>